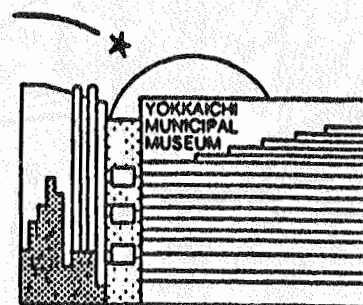


平成12年度

■ 年 報 ■

第8号



四日市市立博物館

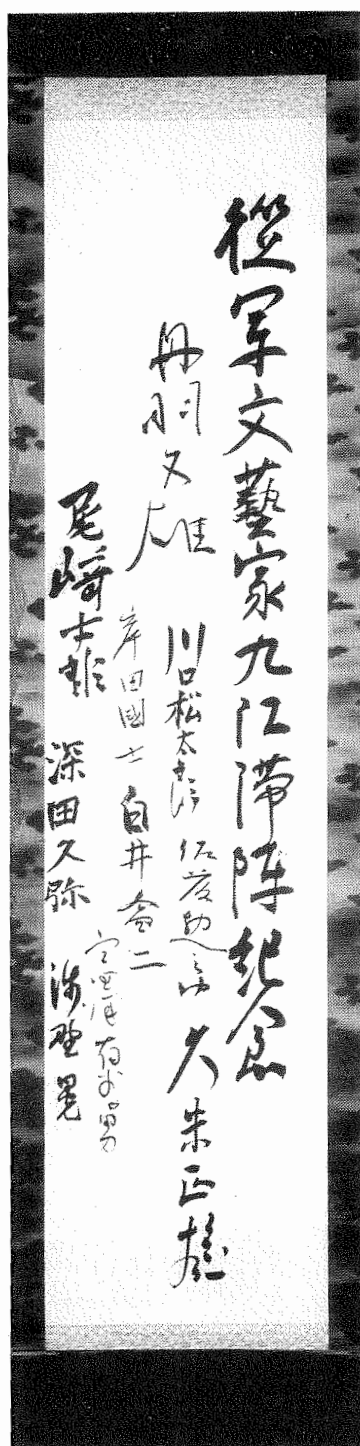
四日市市民憲章

私たちの四日市は、西に鈴鹿山脈、東に伊勢湾を望むすばらしい自然に恵まれ、古くから「市」が開かれたまちとして、また、東海道の宿場として栄えてきました。この自然と歴史のうえに近代産業が開花し、世界に広がる港とともに、明日に向かって躍進する都市です。

私たちは、四日市市民であることに誇りと責任をもち、豊かな未来と住みよい郷土を築くため、次のことを誓います。

1. 自然を愛し緑と水のきれいなまちをつくります。
1. やさしい心のかよい合う温かいまちをつくります。
1. きまりを守り楽しく明るいまちをつくります。
1. 伝統を生かし文化の香りのたかいまちをつくります。
1. 産業を育て活気あふれるまちをつくります。

(昭和57年8月1日制定)



『従軍文芸家九江滞陣記念』

(本館蔵)

丹羽文雄（四日市市出身）は、昭和13年9月に内閣情報部の要請で、上海方面に従軍作家として派遣された。漢口作戦を展開する部隊とともに、丹羽をはじめ、久米正雄、尾崎士郎、岸田國士、川口松太郎等は10月上旬に、この作戦の基地である九江に到着した。この寄せ書きは、その際の記念のものである。丹羽は、この従軍体験をもとに、「還らぬ中隊」を発表している。同氏の最初の戦場小説となった。

平成5年に開館した博物館も8年目を迎え、ようやく市民のみなさまに認知されてきたように思います。博物館ではひとりでも多くの方に関わっていただけるきっかけとして、展覧会やプラネタリウムの番組、あるいはさまざまな催しをおこなっています。また市民のみなさま方にもボランティア活動をはじめとして博物館の活動に積極的に参加していただいています。

平成12年度は8つの特別展・企画展と5つのプラネタリウム番組を開催し、市内外から10万人を超える方々に来館していただきました。

講演会では専門家による興味深い内容の講義で展覧会に対する理解を深めていただきました。また、博物館教室や展覧会関連行事などでは参加して体験していただく企画もいくつか採り入れました。プラネタリウム事業では、各種放映番組のほか、子ども天文教室や、コンサート、また移動天文車が市内各地に出向いての観望会などの催しも好評です。

このような活動を通して、多くの皆さんとの関わりの中で、博物館活動が活性化されていくものと信じ、今後とも貴重な文化遺産の保存と活用を図り、市民活動の創造に寄与する生涯学習の場として親しんでいただきたいと思います。

平成13年11月

四日市市立博物館



目 次

I. 事業概要

1 博物館事業

1. 常設展示	1
2. 企画・特別展示	1
3. 教育普及事業	8
4. 資料収集保存事業	12
5. 調査研究事業	17

2 プラネタリウム事業

1. 天文展示	18
2. 投映活動	18
3. 教育普及活動	20
4. 移動天文車運営事業	21

II. 管理・運営

1. 組 織	22
2. 予 算	23
3. 博物館協議会	24
4. 利用状況	25
5. 関係法規	28

III. 施設概要

31

IV. 利用案内

34

I. 事業概要

1 博物館事業

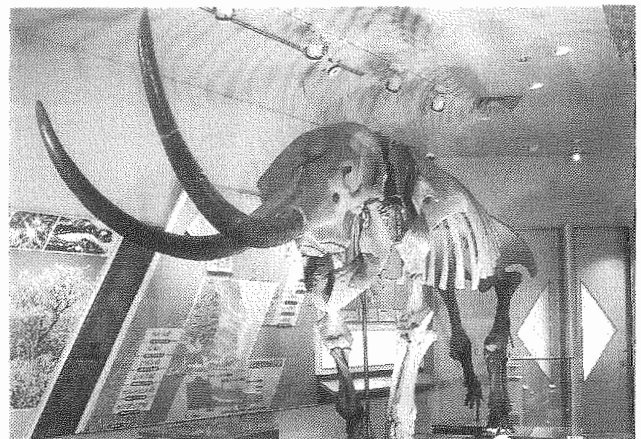
1. 常設展示

基本テーマ『伊勢湾と鈴鹿山脈のある四日市の文化と生活環境』をもとに、地質時代から現代までの四日市市および北勢地域のあゆみを、『北勢地域のおいたちと自然環境』、『原始・古代の人びとの生活』、『四日市と四日市庭浦の成立』、『東海道と伊勢参宮道の賑わい』、『四日市港と近代産業の発展』、『戦災からの復興と都市の創造』の6つのテーマで構成し、その時代の特色を浮き立たせるよう工夫している。

サルビアシアターでは12面マルチスクリーンによる展示紹介とハイビジョン番組の上映をおこない、コーナー展示では、戦前には東海地方有数の祭りであった「四日市祭り」と、「浮世絵」に描かれた四日市の展示をおこなっている。

●平成12年度常設展示

開館日数	307日間（前年度比1日増）
観覧者数	29,966人（前年度比1,914人増）
観覧料	一般 210円
	高・大生 160円
	小・中生 100円



〈テーマ1 展示室〉

2. 企画・特別展示

本年度は8つの企画展・特別展を開催した。また、共催事業として「第5回発掘展 四日市市埋蔵文化財展 2000」と、「第42回北勢地区高等学校美術展」を開催した。

(1) 企画展1 「新 弥生紀行 ― 北の森から南の海へ ―」

今から2000年前の弥生時代の日本列島で繰り広げられたさまざまな生活を、北海道から琉球諸島までを旅することで体験。

〔主 催〕 四日市市立博物館、朝日新聞社

〔特別協力〕 国立歴史民俗博物館

〔後 援〕 文化庁

- 〔主な展示資料〕
- ・ 2000 年前の南のムラと北のムラ再現ジオラマ
 - ・ 中広形銅矛（長崎県シゲノダン遺跡出土、重文）
 - ・ 蝶形骨製品（沖縄県安座間原遺跡出土）
 - ・ クマ形土製品（岩手県上杉沢遺跡出土）

○会 期：2月24日（木）～ 4月11日（火） 42日間（平成12年度分 10日間）

○観覧者数：3,307人（平成12年度分 916人）

○観覧料：一般 600円 高大生 400円 小中生 100円（常設展入場料含む）

○担当者所感（企画普及係学芸員：中野 千幸）

これまでの固定化した弥生時代のイメージを払拭し、各地で開花した生活文化を紹介しながら文化の多様性を探る興味深い内容であった。



〈チラシ〉

(2) 特別展1 「粋と艶、旅のあこがれ MOA美術館所蔵浮世絵版画名品展」

MOA美術館が所蔵する浮世絵版画から役者絵、美人画、風景画の各ジャンルをテーマ設定して展示した。関連行事として、講演会と版画摺り体験を実施した。

〔主 催〕 四日市市立博物館、中日新聞社、東海テレビ放送

〔協 力〕 MOA美術館、財団法人エム・オー・エー美術・文化財団三重支部

〔後 援〕 近畿日本鉄道、三重テレビ放送

〔主な展示資料〕 歌川広重「東海道五十三次（保永堂版）」、喜多川歌麿「五節句」

○会 期：4月22日（土）～ 5月23日（火） 29日間

○観覧者数：9,699人

○観覧料：一般 800円 高大生 500円 小中生 100円（常設展入場料含む）

○関連行事

・ 講演会「浮世絵とその時代 ― 浮世絵版画の歴史 ―」

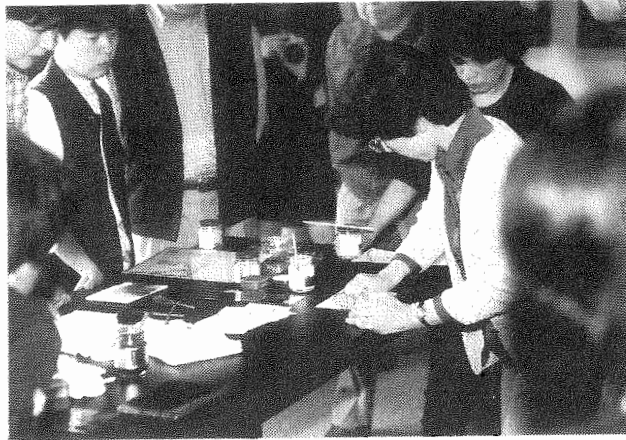
講 師 専修大学教授 内田 欽三

4月23日（日）講座室 受講者 110人

・ 版画摺り体験 会期中の日曜・祝日 4階ラウンジ

○担当者所感（企画普及係学芸員：田中 伸一、管理係：伊藤 幸子）

芝居と遊び、生活と風俗、旅と風景の3つに分けて、歌麿の「文読美人」や豊国の役者舞台之姿絵などの江戸の名品とともに、橋口五葉などの近代の作品もあわせて幅広く展観した。これら作品は概ね好評であったが、加えて順序摺りや摺り体験の評価も高く、有意義な展覧会であった。



〈摺り体験〉

(3) 企画展2 「2000 イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」

イタリアのボローニャで毎年開催される絵本原画のコンクール入賞作品を展示。同時にワークショップも開催。

〔主 催〕 四日市市立博物館、中日新聞社、東海テレビ放送

〔主な展示作品〕 中辻悦子「よるのようちえん」

○会 期：6月18日(日)～7月16日(日) 25日間

○観覧者数：7,598人

○観覧料：一般 600円 高大生 400円 小中生 100円（常設展入場料含む）

○関連行事

・トーク「21世紀に残したい絵本」

出演者 江國 香織（作家）、小野 明（絵本編集者）、増田 喜昭（絵本店主）

6月24日(土) じばさん三重6階ホール 受講者 125名

○担当者所感（企画普及係指導主事：井川 和道）

2000年という区切りの年なので、入賞作品の展示だけでなく「21世紀に残したい絵本100冊」のコーナーや、中辻悦子さんの特別展示としてインスタレーションを加えることができた。原画と絵本の両方で楽しめる展示となった。



(4) 企画展3 「はるかなる星空の世界 ～ 宇宙を観る～」

かつて宇宙に見た夢が現実になりつつある今、「観る」をテーマに人々がどのように宇宙を探ってきたのかを参加・体験をまじえながら紹介。最新の宇宙開発コーナーも設置。

〔主 催〕 四日市市立博物館

〔後 援〕 三重県教育委員会、宇宙開発事業団

〔主な展示資料〕 国友藤兵衛作反射望遠鏡、H2 ロケット模型

○会 期：7月29日(土)～9月10日(日) 38日間

○観覧者数：3,703人

○観覧料：一般 600円 高大生 400円 小中生 100円(常設展入場料含む)

○関連行事

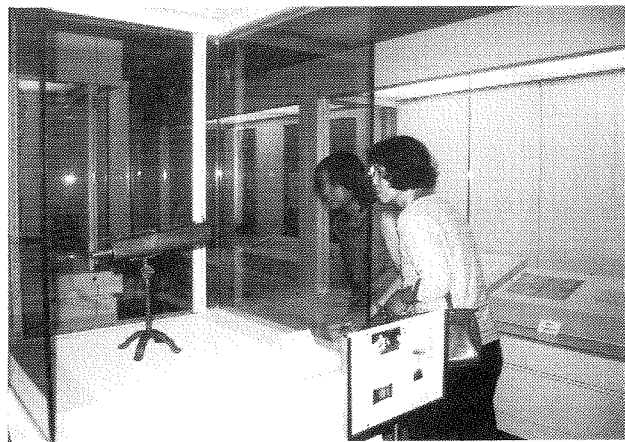
・講演会「守ろう地球 めざそう宇宙」

講 師 元種子島宇宙センター所長 菊山 紀彦

8月6日(日) 講座室 受講者 50人

○担当者所感(天文係指導主事：浅井 晃)

宇宙の謎をさぐるために、人類がさまざまな工夫をしてきたこと、ものづくりのおもしろさの演出など意図に沿った展示ができ、来館者に楽しみながら学んでいただくことができた。ただし、この企画を市民に十分知ってもらうための広報のあり方については課題が残った。



(5) 共催展1 「第5回発掘展 四日市市埋蔵文化財展 2000」

近年四日市で多くの発掘がおこなわれており、陣屋跡や弥生集落跡など、その成果を展示。

〔主 催〕 四日市市教育委員会文化課、四日市市立博物館

〔主な展示資料〕 ・伊坂銅鐸 ・金塚遺跡出土銅鐸片

・山奥遺跡出土鳥形土器、土製模造鏡

・山川遺跡出土製塩土器、埴製品

○会 期：9月16日(土)～10月9日(月・祝) 21日間

○観覧者数：2,018人

○観覧料：一般 210円 高大生 160円 小中生 100円（常設展入場料含む）

○担当者所感（企画普及係学芸員：中野 千幸）

最新の調査成果とあわせて、発掘現場や資料整理作業の風景を再現したコーナーを設けることで、埋蔵文化財に親しみやすい場を提供できたと思う。

(6) 特別展2 「～ 王朝の精華 ～ 近衛家と陽明文庫の至宝」

平安の栄華を極めた藤原氏。その嫡流である近衛家の陽明文庫に所蔵する名宝の数々を展示。

〔主 催〕 四日市市立博物館、中日新聞社、中部日本放送、文化庁

〔協 力〕 財団法人陽明文庫

〔主な展示資料〕 ・「御堂関白記」（国宝） ・「後二条殿記」（国宝）
・「大手鑑」（国宝） ・「倭漢抄」（国宝）

○会 期：10月21日（土）～ 11月26日（日） 32日間

○観覧者数：5,551人

○観覧料：一般 900円 高大生 600円 小中生 100円（常設展入場料含む）

○関連行事

・講演会「近衛家と陽明文庫の至宝」

講 師 陽明文庫長 名和 修

10月22日（日）講座室 受講者 70人

・講演と実演教室「みやびな香の世界」

講 師 御家流直門師範 東 郁子

11月3日（金・祝）講座室 受講者 60人

○担当者所感（企画普及係長兼学芸員：堀越 光信）

陽明文庫の名品を一堂に集めた展覧であり、見応えのあるものになった。絵画で現在再評価されている渡辺始興の作品も展示でき、話題性があった。また、透明シートに釈文を刷り込んでガラス面に貼って掲出したため、展示の妨げにならない形で展示文書の内容を示すことができ有効だった。



(7) 企画展4 「親子で遊ぶ－『木とのふれあいワールド』展」

木を素材とした玩具や作品に触れ、楽しみながら木の感覚を味わうハンズオンの展覧会。

〔主 催〕 四日市市立博物館、朝日新聞社

〔主な展示資料〕 ・ヒノキのプール ・引き出し箱 ・参加彫刻

○会 期：12月7日(木)～2月4日(日) 47日間

○観覧料：一般 600円 高大生 400円 小中生 100円(常設展入場料含む)

○観覧者数：8,682人

○関連行事

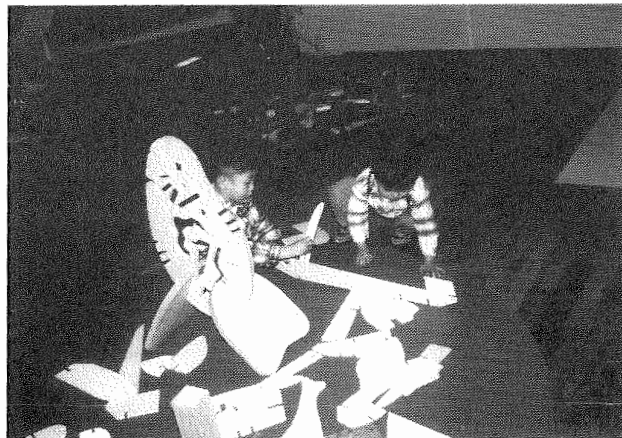
・ふれあい木工教室「鳥をつくろう」

講 師 静岡大学教授 杉山 明博

12月17日(日)、1月14日(日) 講座室 受講者 80人

○担当者所感(企画普及係学芸員：中野 千幸)

小さな子どもたちでも積極的に関われる内容であったため、来場者には大変好評であった。ただの遊びで終わらせることなく、展覧会の意図を伝えるためには、作品と子どもたちとの間で「人」が果たす役割が大きいことを痛感した。



(8) 共催展2 「第42回 北勢地区高等学校美術展」

北勢地区にある高校美術部と授業の作品を展示する恒例の展覧会。

〔主 催〕 北勢地区高等学校美術展実行委員会、四日市市立博物館

○会 期：2月8日(木)～2月13日(火) 6日間

○観覧料：無料

○観覧者数：1,010人

(9) 企画展5 「文豪丹羽文雄その人と文学 ― ひと我を非情の作家と呼ぶ ―」

丹羽文雄の所蔵するコレクションを紹介し、あわせて四日市市所蔵の丹羽文雄文学資料を展示。

〔主 催〕 四日市市立博物館、四日市市立図書館、四日市市教育委員会文化課

〔主な展示資料〕 ・自筆原稿 ・全作品（単行本）

○会 期：2月22日（木）～ 3月13日（火） 18日間

○観覧者数：2,275人

○観覧料：一般 210円 高大生 160円 小中生 100円（常設展入場料含む）

○関連行事

・講演会『『蕩児帰郷』をめぐって ― 丹羽文学と故郷 ―』

講 師 文芸評論家 大河内 昭爾

3月4日（日）じばさん三重6階ホール 受講者 290人

○担当者所感（企画普及係主幹兼学芸員：秦 昌弘）

丹羽文雄の生涯と主要作品を、氏の作品から文章を抜き出して展示するという試みが好評であり、「文学展」の新しい手法が提示できたと思う。



〈チラシ〉

(10) 特別展3 「みやびの情景・京の日本画 ― 京都市立芸術大学の伝統と革新 ―」

京都市立芸術大学とその前身である京都市立絵画専門学校にかかわった、上村松園、土田麦僊、宇田荻邨らの作品を展示。

〔主 催〕 四日市市立博物館、京都市立芸術大学芸術資料館、朝日新聞社

〔後 援〕 NHK津放送局

〔主な展示作品〕 ・竹内栖鳳「ヴェニスの方」

○会 期：3月25日（日）～ 5月6日（日） 36日間（平成12年度分 6日間）

○観覧者数：8,059人（平成12年度分 986人）

○観覧料：一般 800円 高大生 500円 小中生 100円（常設展入場料含む）

○担当者所感（企画普及係主幹兼学芸員：赤川 一博）

本展は平成12・13年度にわたるため、所感は13年度年報に報告予定。

(11) その他

- ・特別陳列1「いま話題の文化財 ― 三重の白鳳仏」
4月8日(土)～5月9日(火) 29日間 3階ラウンジ
- ・特別陳列2「物指・度～長さを測る～」
8月10日(木)～8月29日(火) 18日間 3階ラウンジ
- ・教育展示1「大昔の四日市～弥生時代と古墳時代」
4月20日(木)～6月27日(火) 61日間 3階常設展示内
- ・教育展示2「四日市空襲 戦争中の暮らし」
6月8日(木)～7月11日(火) 30日間 2階常設展示内
- ・教育展示3「むかしの暮らし」
12月14日(木)～2月27日(火) 61日間 3階ラウンジ
- ・「人権のパネル展」
12月7日(木)～12月12日(火) 6日間 1階エントランスホール

3. 教育普及事業

博物館の重要な機能として展示・公開、調査研究と並んで教育普及があげられる。当館では市民の学習意欲の向上という重要な任務もその果たすべき機能と位置づけ、従来から力を注いでいる。博物館が、市民にとって、より親しめる施設として利用してもらうための機会提供の意味も兼ねておこなっている月例土曜講演会は、日時を決めて実施していることもあって定着してきた。子どもを対象とした博物館教室は展覧会の内容に合わせた体験的な活動となるよう試みた。学校団体の見学では、見学キットを整備し、興味をもって展示を見てもらうことができるような方法等を工夫しつつある。

(1) 月例土曜講演会

月1回、第3土曜日(14:00～15:30)に講座室にて開催。歴史から天文にわたるバラエティーに富んだテーマの講演会。(第6回は講師の都合により中止)

第1回	5月20日	「神の杖」	神宮徴古館農業館館長	矢野 憲一	受講者 58人
第2回	6月17日	「はじめてのやまのぼり」	日本カモシカセンター専務理事	森 豊	受講者 26人
第3回	7月15日	「浦島太郎が歳をとらないワケ ～ 相対性理論と宇宙～」	当館顧問	山田 卓	受講者 102人
第4回	8月19日	「本居家の女たち ― 能登の結婚」	本居宣長記念館研究員	鈴木 香織	受講者 50人
第5回	9月30日	「平安時代の年中行事を体験する ― いつきのみや歴史体験館のころみ」	斎宮歴史博物館学芸員	宇河 雅之	受講者 73人
第7回	11月18日	「関白後二条師通とそのサロン」	当館企画普及係長兼学芸員	堀越 光信	受講者 56人
第8回	12月16日	「うみ、さかな、ひと」	鳥羽水族館飼育研究部次長	山本 清	受講者 35人
第9回	1月20日	「日本古代の神地」	当館顧問	上井 久義	受講者 51人

第10回	2月17日	「東大寺重源像の構造と作者」	当館企画普及係主幹兼学芸員 赤川 一博	受講者 35人
第11回	3月17日	「近世亀山の武家社会 ～ 石川家中の馬術について」	亀山市歴史博物館主任主事兼学芸員 小林 秀樹	受講者 38人

(2) 博物館教室

○子ども博物館教室〔一部申込制〕

4月8日(土)	「新弥生紀行ギャラリーツアー」	当館学芸員 中野 千幸	講座室	受講者 10人
5月14日(日)	「MOA所蔵浮世絵版画名品展ギャラリーツアー・浮世絵版画を摺ろう」	当館指導主事 井川 和道	講座室	受講者 7人
6月10日(土)	「石器を使ってみよう」	当館指導主事 井川 和道	講座室	受講者 10人
7月8日(土)	こどものためのワークショップ「よるのはくぶつかん」	作家 中辻 悦子、絵本店主 増田 喜昭	講座室	受講者 20人
8月12日(土)	「博物館を探検しよう」	当館指導主事 井川 和道、当館学芸員 中野 千幸	館内	受講者 11人
10月7日(土)	「発掘展ギャラリーツアー・土器をつくろう」	当館指導主事 井川 和道	講座室	受講者 9人
11月12日(日)	「陽明展ギャラリーツアー・貴族になって遊ぼう」	斎宮歴史博物館学芸員 宇河 雅之	講座室	受講者 3人
12月9日(土)	「木とのふれあい展・木と遊ぼう」	当館指導主事 井川 和道	講座室	受講者 11人
1月13日(土)	「昔の道具を使ってみよう」	当館指導主事 井川 和道	講座室	受講者 19人
2月10日(土)	「わらざるりを作ろう」	小山田地区老人会メンバー	講座室	受講者 15人

○名作鑑賞講座 「ミレーを中心とした19世紀フランス絵画」(申込制)

講師	名古屋ボストン美術館学芸員 山田 真規子	受講者 59人
11月21日・28日、12月12日・19日、1月16日 全5回		

○冬の教室 「日本霊異記を読む」(申込制)

講師	当館学芸員 田中 伸一	受講者 20人
2月6日・20日、3月6日・20日 全4回		

(3) 博物館実習

学芸員資格取得のために必要な博物館実習課程履修のため、各大学から要請のあった実習生の受入れを実施し、博物館の実務の概要を実技と実習で学ばせた。

○8月7日(月)～8月27日(日) 24名

愛知淑徳大学	1人	金城学院大学	1人	東海女子大学	3人
名古屋芸術大学	1人	名古屋女子大学	1人	名城大学	5人
三重大学	2人	皇學館大学	3人	清泉女子大学	1人
専修大学	1人	創価大学	1人	帝京大学	1人
東京女子大学	1人	関西学院大学	1人	福岡大学	1人

日 程

	9:00～	10:00～	13:00～	15:30～	16:30～
8月7日(月)	館長挨拶、日程説明、自己紹介、個別実習打ち合わせ	常設展示、特別展示、館内施設見学、展示の分析	博物館の機能と学芸員の仕事について討論	普及事業について 情報発信のありかた	課題説明、グループ編制
8月9日(水)	9:00～		13:00～	15:00～	17:00～
	秤の展示準備			絵画資料・歴史資料の取扱	課題準備
8月10日(木)	9:00～	10:00～	13:00～	14:30～	16:45～
	資料の調査・収集と保存	梱包資材製作	考古資料の取扱	課題発表	館長挨拶
個別実習	1日4人程度で(8月27日まで) アンケートのパソコン入力、ワークショップの係体験など				
課 題	4人程度の小グループで、博物館活動のある部分をテーマに取り上げ、レポートを作成し、発表する。				

(4) 解説ボランティア

昨年度と同様に各展覧会ごとに事前研修を実施し、さらにボランティア各自の自主学習の成果をもとに、来館者への解説サービス活動をおこなった。

展 覧 会 名	開催日数	活動延人数
新 弥生紀行 - 北の森から南の海へ -	42日(うち12年度分10日)	183人(うち12年度分35人)
粋と艶、旅のあこがれ MOA美術館所蔵浮世絵版画名品展	29日	164人
2000 イタリア・ボローニャ国際絵本原画展	25日	136人
はるかなる星空の世界 ～ 宇宙を観る ～	38日	159人
第5回発掘展 四日市市埋蔵文化財展 2000	21日	100人
～ 王朝の精華 ～ 近衛家と陽明文庫の至宝	32日	157人
親子で遊ぶ - 『木とのふれあいワールド』展	47日	161人
文豪丹羽文雄その人と文学 - ひと我を非情の作家と呼ぶ -	18日	96人
みやびの情景・京の日本画 - 京都市立芸術大学の伝統と革新 -	36日(うち12年度分6日)	183人(うち12年度分29人)

(5) 古文書ボランティア

平成 11 年度に引き続き、「清水本陣文書」の翻刻作業を進めた。2 チームに分けて月 2 回ずつ、当館にて活動。

(6) 入館者調査

今後の博物館のあり方や企画・運営等に資するため、各企画展・特別展ごとに「入館者アンケート」を実施し、入館者の情報分析を実施。市民・利用者側のニーズの把握につとめた。

(7) 講師等派遣活動

従来より、地区市民センター等館外で行われる講演会等への講師派遣を実施してきた。こうした派遣活動は博物館の担うべき教育普及機能と市民の学習意欲とのパイプ役として、また博物館へ親しんでもらうための活動として積極的に対応することとした。

- ・企画普及係学芸員 中野 千幸 第12回全国生涯学習フェスティバル
- ・企画普及係指導主事 井川 和道 国立民族学博物館雑誌対談

(8) 広報活動

企画展・特別展をはじめとする各事業の広報は、市広報の活用はもちろん「博物館ニュース」の発行、タウン誌・各報道機関への情報提供（記者発表・資料提供等）、社会教育・学校教育機関・地区市民センターその他公共施設及び商業施設へのポスター・チラシの配付・掲示を中心におこなった。また、各事業ごとに戦略的に広報をおこなってきた。ホームページについてはリニューアルし、ビジュアルでわかりやすい情報提供を目指した。

(9) 博物館ニュースの発行

博物館の活動を紹介し、子どもにも親しめる情報を発進するために、隔月に「博物館ニュース」を発行した。配布対象は、市内公共施設、学校、県内文化施設などである。

(10) 施設の利用

当館の施設の利用については、四日市市立博物館条例第 5 条により、特別展示室及び講座室を博物館の設置目的に反しない、博物館事業に支障のない範囲において、市民の教育・学術及び文化の発展に寄与するものについて利用を許可している。また、1 F エントランスホールについても、支障のない限り開放する方向で対応した。12 年度実績は次のとおりである。

〔特別展示室〕

- ・「第15回和紙ちぎり絵展」 6月9日(金)～11日(日) 主催：四日市和紙ちぎり絵サークル

〔講座室〕

- ・赤十字のつどい 5月13日(土)
- ・全国老人保健施設大会 10月5日(木)・6日(金) 三重県老人保健施設協会
- ・第2回榎並孝子人形教室展 2月1日(木)～4日(日) 榎並 孝子
- ・講演会 2月18日(日) 四日市文化会
- ・明るく楽しい家庭づくり作品展表彰式 3月3日(土) 四日市市青少年育成市民会議

〔1階エントランスホール〕

- ・四日市市・天津市小中学生環境保護ポスター展 6月22日(木)～7月4日(火) 国際交流課
- ・子どもの宇宙(曼陀羅)展 7月29日(土)～8月15日(火) メリーゴーランド
- ・大判カルタ原画展 10月26日(木)～11月7日(火) 全国生涯学習フェスティバル四日市市実行委員会
- ・文化功労者表彰式 11月3日(水・祝) 文化課
- ・版画年賀状展 1月10日(月)～16日(日) 四日市木版画友の会
- ・明るく楽しい家庭づくり作品展 3月3日(土)～13日(火) 四日市市青少年育成市民会議

(11) 関連出版物

特別展図録

「粋と艶、旅のあこがれ ～ MOA美術館所蔵浮世絵版画名品展 ～」

A 4 166 頁 2,000 部 1,300 円

「～ 王朝の精華 ～ 近衛家と陽明文庫の至宝」

A 4 142 頁 2,700 部 1,500 円

「みやびの情景・京の日本画 ― 京都市立芸術大学の伝統と革新 ―」

A 4 180 頁 1,500 部 1,300 円

企画展図録

「2000 イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」

A 4 128 頁 500 部 2,000 円

「親子で遊ぶ木とのふれあいワールド展」

A 4 114 頁 200 部 1,000 円

「文豪丹羽文雄その人と文学」

A 4 32 頁 1,500 部 800 円

年報等

研究紀要第8号 A 4 126 頁 500 部 800 円

年報第7号 A 4 36 頁 450 部

4. 資料収集保存事業

博物館の諸活動の中で最も基本となる活動として、各資料の購入及び収集の充実を図り、その保存に努めた。なお、資料収集上の専門事項について審議・指導・助言を行う「資料委員会」を設置している。

〔四日市市立博物館資料委員会委員〕 ◎委員長 ○副委員長 (順不同) 平成13年3月1日現在

◎上野 秀治	歴 史	皇學館大学教授
山沢 義貴	考 古	三重県埋蔵文化財センター次長
○毛利 伊知郎	絵 画	三重県立美術館学芸普及グループ主幹
山口 素弘	絵 画	三重大学教授
井上 喜久男	工 芸	愛知県陶磁資料館主任学芸員
茅原 弘	産業史	日本産業技術史学会会員
市橋 甫	自 然	御在所ロープウェイ株式会社役員
印南 敏秀	民 俗	愛知大学経済学部教授

(1) 資料委員会

第1回 開催日：10月24日(火)

議 題：購入予定資料の検討

第2回 開催日：3月5日(月)

議 題：12年度購入資料の総括

(2) 収蔵庫燻蒸 11月29日(水)～12月2日(土) (11月30日～12月2日は臨時休館)

(3) 資料の状況

1 人 文 科 学 資 料	区 分		実物	標本	模写 模型
	(1) 古 美 術		630	4	10
	(2) 近 代 美 術		397	0	0
	(3) 考 古 学		236	6	20
	(4) 民 俗		3,827	0	9
	(5) 民族・人類学		0	0	0
	(6) 歴 史		4,827	0	37
	(7) そ の 他		74	4	9
	計		9,992	14	84
	図 書	写 真	その他		
	4,847	67	110		

2 自 然 科 学 資 料	区 分		実 物 標 本	模 写 模 型
	(1) 動 物 資 料		0	0
	(2) 植 物 資 料		3,272	0
	(3) 地 学 資 料		93	2
	(4) 理 工 学 資 料		0	0
	(5) 天 文 資 料		7	0
	(6) そ の 他		0	1
	計		3,372	3
	図 書	写 真	その他	
	463	59	10	

(4) 新収資料

購入資料

資 料 名 ・ 作 者 等	分 野	購入年月日
四日市博覧会音頭	歴史	H12. 5.15
伊勢朝熊岳絵図	歴史	H12. 5.15
東海道之記・東海道案内・東海道名所図会・伊勢参宮のしるべ・伊勢参宮細見大全・東海道中山道道中記	歴史	H12. 5.15
黒沢翁満短冊	歴史	H12. 5.15
加藤政吉郎薬舗広告	歴史	H12. 5.16
四日市庁舎・萬古焼製陶工場・港（絵葉書）	歴史	H12. 5.16
田村泰次郎原稿「星を恋ふ男」	歴史	H12. 5.22
三重県多額納税者席順一覧表	歴史	H12. 5.26
員弁郡地誌（全）	歴史	H12. 5.26
三重県桑名郡全図	歴史	H12. 5.26
田村泰次郎「高見順の死に思ふ」	歴史	H12. 5.26

丹羽文雄原稿「罌粟の花咲く家」	歴史	H12. 7.31
田村泰次郎色紙	歴史	H12. 8. 1
新板東海道中双六	歴史	H12. 8. 1
新編伊勢参宮案内	歴史	H12. 8. 1
訂正・再版新撰三重県地誌（全）	歴史	H12. 8. 1
湯の山温泉絵はがき（3組）	歴史	H12. 8. 1
伊勢名所真図	歴史	H12. 8. 6
三重県新旧町村名一覧（明治35年発行）	歴史	H12. 8. 6
第九回関西府県聯合共進会三重県協賛会報告	歴史	H12. 8. 6
大軌・参急・関急電鉄沿線パンフレット	歴史	H12. 8. 6
勢州長島領内諸入用帳	歴史	H12. 8. 7
伊勢参宮膝くりげ道中寿語録	歴史	H12. 8.28
参宮急行名所図絵（吉田初三郎画）	歴史	H12. 9. 1
伊勢国三重郡宿野村本高名寄帳	歴史	H12.11.22
伊藤桂一色紙	歴史	H12.11.24
校正聴訟彙案	歴史	H12.11.24
源氏百人一首	歴史	H12.11.24
関西鉄道資料一括	歴史	H12.11.24
白木屋清七資料	歴史	H12.11.25
丹羽文雄草稿「書初」	歴史	H12.11.25
四日市市及附近図	歴史	H12.11.26
丹羽文雄他文士寄書幅	歴史	H12.12. 1
稻生西宮経大般若経卷第三七一	歴史	H12.12. 5
阿漕焼色絵輪花鉢	美術工芸	H12.12. 6
阿漕焼色絵菊花文六角鉢	美術工芸	H12.12. 6
松阪萬古赤絵瓔珞文水指	美術工芸	H12.12. 6
藤堂高兌筆「花鳥図」	美術工芸	H12.12.19
四日市萬古色絵土瓶	美術工芸	H12.12.27
四日市萬古色絵象形土瓶	美術工芸	H12.12.27
四日市萬古色絵魚尽くし土瓶	美術工芸	H12.12.27
四日市萬古色絵眠り猫	美術工芸	H12.12.27
四日市萬古鴨形銚子	美術工芸	H12.12.27
四日市萬古色絵雉と狸図花瓶	美術工芸	H12.12.27
四日市萬古群鶴草花文急須	美術工芸	H12.12.27
有節萬古青磁鳳凰文手桶水指	美術工芸	H12.12.27
皇国地神五代ノ国	美術工芸	H13. 1.12
東海道亀山	美術工芸	H13. 1.12
東海道名所之内伊勢外宮	美術工芸	H13. 1.12
東海道名所之四日市追分	美術工芸	H13. 1.12
東海道坂ノ下	美術工芸	H13. 1.12
東海道石薬師	美術工芸	H13. 1.12
東海道五十三駅坂ノ下筆捨やま	美術工芸	H13. 1.12
東海道五十三駅庄野一里塚	美術工芸	H13. 1.12

東海道五十三駅石薬師関地藏	美術工芸	H13.1.12
東海道桑名	美術工芸	H13.1.12
東海道一ツ目千両石薬師	美術工芸	H13.1.12
東海道一ツ目千両亀山	美術工芸	H13.1.12
東海道五十三次之内四日市（蔦屋版）	美術工芸	H13.1.12
東海道五十三次之内石薬師（蔦屋版）	美術工芸	H13.1.12
東海道五十三次之内関（蔦屋版）	美術工芸	H13.1.12
書画五十三駅伊勢坂ノ下筆捨山之古跡	美術工芸	H13.1.12
大日本物産図絵伊勢国五色砂ニテ盆石飾	美術工芸	H13.1.12
東海道宮・桑名間名古屋山三	美術工芸	H13.1.12
桑名荒馬大五郎	美術工芸	H13.1.12
諸国六十八景伊勢鈴鹿嶺	美術工芸	H13.1.12
東海道庄野	美術工芸	H13.1.12
昔語桑名祭りの旧事	美術工芸	H13.1.12
東海道名所改正道中記坂ノ下筆捨山	美術工芸	H13.1.12
東海道石薬師	美術工芸	H13.1.12
三重県員弁郡青年補習教本	歴史	H13. 2. 1
丹羽文雄短冊「竹不改色」	歴史	H13. 2. 1
丹羽文雄色紙「大悲」	歴史	H13. 2.13
増山河内守諸規式手控	歴史	H13. 2.16
曾井村宗門改帳	歴史	H13. 2.16
東海道五十三駅道中双六	歴史	H13. 2.16
東海道五十三次（絵本駅路鈴）四日市	歴史	H13. 2.28
伊勢参宮按内記	歴史	H13. 2.27
彩色競技・謹賀新年昭4,昭6	歴史	H13. 3. 3
田村泰次郎「大学」	歴史	H13. 3. 3
三重県案内	歴史	H13. 3. 1
東海道膝栗毛印譜・勢陽五鈴遺響・東海道木曾路覚道中記・伊勢電鉄山田線開通記念絵葉書・四日市関連絵葉書・湯の山温泉絵葉書	歴史	H13. 3. 2
草紙1号～5号	歴史	H13. 3.12

寄贈資料

資料名・作者等	分野	寄贈者	寄贈年月日
四日市祭絵葉書（明治41年）	歴史	川喜多 孝	H12. 5.10
時局防空必携（昭和18年改訂）、田村泰次郎『風のなかの都』（昭和29年初版）・『獣の日』（昭和22年初版）、丹羽文雄『怒濤』（昭和16年）・『南国抄』（昭和22年）・『母の青春』（昭和17年）・『親鸞とその妻』（昭和35年）・『海戦』（昭和17年）・『日々の背信』（昭和32年）・『陶画婦人』（昭和21年）・『一路』（昭和43年）・『丹羽文雄集』（昭和18年）	歴史	川喜多 孝	H12. 5.11
消防団はっぴ、提灯（2点）、番傘〔祭礼用〕、提子	民俗	斉木 英雄	H12. 5.29

いせ富田（富田町鳥瞰図、昭和11年頃）	歴史	廣瀬 文夫	H12. 6. 3
度量衡考上・下、日本人の尺度、秤の使い方と分解掃除法（研究資料）	歴史	日比 義也	H12. 6.18
田村泰次郎『新粧五人女』昭和25年初版）・『東京の門』（昭和27年初版）・『幸福のための秘密』（昭和24年初版）・『昨日の花々』（昭和54年7月）、田村泰次郎原作映画主題歌譜面「今日われ恋愛す」（昭和24年）	歴史	川喜多 孝	H12. 8.21
竹武内義雄『老子と莊子』（昭和5年初版）	歴史	川喜多 孝	H12. 8.21
亀山製絲(株)室山工場の最終製品（生糸）撚糸前の半製品、最終原料（繭）乾燥繭	民俗	亀山製絲(株)	H12. 8.17
『白球追って四日市高校野球部100年のあゆみ』	歴史	四日市高校野球部OB会	H12. 9. 4
刀剣	美術工芸	松岡 正雄	H12.10.10
県立富田中学校「林友会会誌」（大正15年～昭和8年）7冊、時局防空必携（昭和16年）	歴史	川喜多 孝	H12.10.22
額縁18点、黒松秀志寄贈作品写真アルバム		田中 俊子	H12.12.11
張板、炭箆、十能、火鉢、伸子針、鋺、座布団5枚	民俗	天野 昭一	H13. 2. 1
洗濯板、洗濯盤、蚊帳	民俗	林 昌信	H13. 2. 1
草鞋作台、火消壺	民俗	伊藤 康子	H13. 2. 1
丹羽文雄書「大悲」陶製皿立	歴史	久保村 秀高	H13. 2.23
丹羽文雄『新作品伊藤・丹羽・日比野集』（昭和17年）、『学生時代』（昭和21年）、『かまきりの雌雄』（昭和24年）、『講談社版長編小説名作全集丹羽文雄』（昭和25年）、『雨跡』（昭和25年）、『有情』（昭和37年）	歴史	川喜多 孝	H13. 3. 1
鈴鹿市高岡町オギブル出土磨製石斧、伊勢国分寺跡出土瓦片3点、尾張国分寺跡出土灰釉陶器片2点、須恵器切蓋・須恵器皿・陶器片・鍋把手（出土地不明）、カキ化石、貝化石3点（研究資料）	考古	矢守 多嘉子	H13. 3.
鵜町糠塚山古墳出土円筒埴輪片6点、鵜町糠塚山死人谷横穴出土須恵器蓋坏1組・須恵器・鉄刀、鵜町大膳寺跡出土瓦片、羽津城山出土土師器皿・陶器皿、大宮町出土弥生土器高坏の脚	考古	矢守 多嘉子	H13. 3.
ゆさ、炭箆、頭巾、杵、燭台2点、ランプ、蒸籠一式、田舟、水桶、こたつ、草履編み、国民学校制服、出征旗2点、竹行李、軍隊の帽子（研究資料）	歴史	堀 尅	H13. 3.
『改正酒類醤油満端桶容量速算・差分便法表全』（明治24年）、『酒類醤油容器容量速算表』（大正4年）、『東京朝日グラフィック附録』（大正12年）、広告2点、『算法酒桶丈量表完』（明治14年）、『誌上計量展覧会』（大正10年）、『尺度綜考』（昭和4年）、『はかり百考』（昭和63年）、『計量思想』、『守随家秤座文書』（昭和42年）、『大阪計量博覧会』（大正12年）、『秤座』（昭和48年）、『普通規矩術』（昭和14年）、『和算の話』（昭和19年）、『中国古代度量衡図集』（昭和60年）、『実際家のメートル法意見』（昭和9年）、『中浅型録』（第6版）、『度量衡の歴史』（昭和36年）、『計量百年史』（昭和53年）	歴史	日比 義也	H13. 3.22

寄託資料

資 料 名 ・ 作 者 等	分 野	寄託者	受託年月日
ブリキのおもちゃ（自動車、バス、ピストル）	歴史	落合 富美子	H12. 8.24
仏涅槃図	美術工芸	建福寺 黒田 鐵雄	H13. 2.20

5. 調査研究事業

学芸員の博物館専門職員としての資質を高め、専門分野の学術的研究をはじめ豊富な知識を享受し、特別展示の開催等、多くの事業に資するため、各種情報の収集に努めつつ、調査研究活動を行ってきた。今後も常設展示・特別展示等の充実、教育普及事業の活発化、各専門分野における自己研鑽に努めつつ、他の博物館や公共機関等の調査研究活動への協力、資料収集・展示等への技術的指導と助言・援助、またいろいろな施設で開催される各種の講演会等への講師派遣などで成果還元をはかる。そのため、館及び分野毎の共通テーマに基づいた年度毎の課題調査、学芸員個別の研究テーマによる調査、特別展・企画展に向けた事前の調査を柱として、博物館の諸活動を支える基礎的活動として活発に展開していきたいと考える。

●『研究紀要』第8号の発行

○規格：A4 126頁 500部 販売価格 ￥800

○内容：快慶工房の成立とその展開 — 快慶研究その3 —

北勢地方南部の鯨船行事について — 「北勢鯨船行事調査」から —

資料翻刻 四日市宿 清水本陣文書(三)

研究ノート 天聖院蔵阿弥陀如来坐像胎内文書について

仏像調査報告(東海の仏像展予備調査ノートから)

市内寺院宝物調査銘文集(三) — 平成9年・10年度調査から

研究ノート「博物館における体験」

展覧会から 企画展「新 弥生紀行 ～ 北の森から南の海へ～」

特別展「粋と艶、旅のあこがれ ～ MOA美術館所蔵浮世絵版画名品展～」

企画展「2000 イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」

企画展「はるかなる星空の世界 ～ 宇宙を観る～」

企画展「四日市市埋蔵文化財展 2000 (第5回発掘展)」

特別展「～ 王朝の精華 ～ 近衛家と陽明文庫の至宝」

企画展「親子で遊ぶ — 木とのふれあいワールド —」

赤川 一博

東條 寛

四博古文書会

田中 伸一

赤川 一博

田中 伸一

井川 和道

中野 千幸

田中 伸一

井川 和道

浅井 晃

伊藤 裕之

堀越 光信

中野 千幸

2 プラネタリウム事業

1. 天文展示

テーマ「宇宙観 5000 年の歴史」天体写真・隕石等の展示

映像コーナー「パソコンで楽しむ星空ガイド」「映像で楽しむ天文学」「ひまわり气象台」

2. 投映活動

上映時間と番組

曜日 \ 時間	10:30～	13:00～	14:30～	16:00～
平日	団体利用	季節番組	季節番組	季節番組
土曜日・祝日	季節番組	季節番組	季節番組	季節番組
日曜日	サンデー星空解説	季節番組	季節番組	季節番組
学校・園長期休業期間	季節番組	季節番組	季節番組	季節番組

○一般投映（一般 530 円、高大生 370 円、小中生 210 円、幼児無料）

・季節番組：当日の星空を解説する星空案内とテーマ番組

春番組 春の星座と「宇宙今昔物語」 3月18日(土)～6月11日(日)

投映回数 205 回、入場者数 2,851 人

(平成 12 年度分 投映回数 167 回、入場者数 2,270 人)

夏番組 夏の星座と「人類の眼すばる望遠鏡物語」 6月17日(土)～9月17日(日)

投映回数 265 回、入場者数 6,393 人

秋番組 秋の星座と「宇宙のなぞブラックホール」

9月23日(土)～12月10日(日)

投映回数 176 回、入場者数 3,297 人

冬番組 冬の星座と「ムーミン谷のオーロラ」

12月17日(土)～3月11日(日)

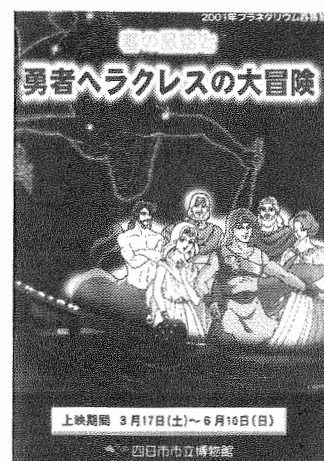
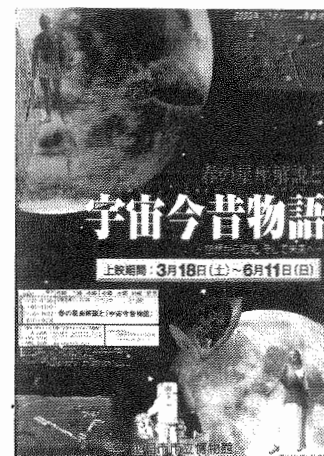
投映回数 209 回、入場者数 5,747 人

春番組 春の星座と「勇者ヘラクレスの大冒険」

3月17日(土)～6月10日(日)

投映回数 194 回、入場者数 2,638 人

(平成 12 年度分 投映回数 60 回、入場者数 908 人)



- ・団体利用：学校・園その他の団体で20名以上の観覧がある場合

幼児・小学生の学年に応じた内容の解説番組（係員のマニュアル解説）

投映回数 111 回、入場者数 8,799 人

- ・サンデー星空解説：夏休み等を除く毎日曜日（10:30～11:20）係員の解説によるプラネタリウム

4・5月 今月の星空と「銀河の旅」

投映回数 6 回、入場者数 169 人

6・7月 今月の星空と「月と彗星」

投映回数 7 回、入場者数 159 人

9月～11月 今月の星空と「きらら号が見た太陽」

投映回数 13 回、入場者数 134 人

12・1月 今月の星空と「私たちの地球」

投映回数 6 回、入場者数 71 人

2・3月 今月の星空と「天文こぼれ話」

投映回数 6 回、入場者数 38 人

○特別番組（前売制）

- ・特別投映（1席 530 円、18:30～19:30）

7月14日（金）「皆既月食とリニア彗星」 講師：浅田 英夫 入場者数 71 人

8月18日（金）「宇宙を電波で観る」 講師：福井 康雄 入場者数 72 人

11月10日（金）「宇宙も地球も生きている」 講師：山田 卓 入場者数 50 人

- ・CDコンサート（1席 530 円、18:30～19:30）

5月12日（金）「タンゴ特集」 入場者数 92 人

6月9日（金）「初夏の星と音楽の夕べ」 入場者数 84 人

10月6日（金）「秋の星と音楽の夕べ」 入場者数 50 人

12月22日（金）「星空の下のクリスマス」 入場者数 50 人

2月10日（土）「冬の星と音楽の夕べ」 入場者数 57 人

3月10日（土）「早春の星と音楽の夕べ」 入場者数 66 人

- ・生演奏コンサート（1席 1,050 円、18:30～20:00）

7月7日（金）「七夕コンサート」 演奏：ハープ&フルート 入場者数 150 人

9月8日（金）「お月見コンサート」 演奏：大関美希&マリンバアンサンブル 入場者数 150 人

12月23日（祝・土）「クリスマスコンサート」 演奏：ア・ピアチェーレ弦楽四重奏団

入場者数 151 人

- ・幼児向き番組：幼児・小学校低学年向けの投映（親子観覧）

春休み期間の3月26日（月）・27日（火）・29日（木）・30日（金）の10:30～11:20 入場者数計 362 人

- ・ヒーリング・プラネタリウム：今夜の夜空と「星座が奏でるシンフォニー」～ 神山純一の世界
 4月7・14・21・28日、5月5・19・26日、6月2・23・30日、7月21日、8月4・11・25日、
 9月1・15・29日、10月13・20・27日、11月3・17・24日の金曜日 18:00～18:50
 投映回数 20 回、入場者数計 131 人

○投映日数・回数・観覧者数

月	投映日数	投映回数	観覧者数	月	投映日数	投映回数	観覧者数
4月	24	65	871	10月	27	98	2,851
5月	27	95	1,768	11月	24	80	1,955
6月	22	82	2,612	12月	17	61	1,824
7月	25	102	4,019	1月	24	85	2,783
8月	26	108	3,678	2月	24	94	2,858
9月	22	75	1,662	3月	23	90	2,436
合 計		285 日		1,035 回			29,317 人

3. 教育普及活動

・リニア彗星観望会

7月23日(日) 四日市スポーツランド(桜町)

参加者 84 人

・21世紀の空を見よう：土星、オリオン大星雲を観望

1月6日(土) 参加者 50 人

・親子星空教室(申込制)：プラネタリウムで星座の勉強後、「きらら号」を使つての観望会

8月12日(土) 市民公園(博物館前) 参加者 88 人

12月2日(土) 市民公園(博物館前) 参加者 19 人

・子ども天文教室(申込制)：季節ごとに内容を変えた3回連続の講座

春の教室 4月22日(土)、5月27日(土)、6月24日(土) 参加者 16組 46 人

夏の教室 7月22日(土)、8月26日(土)、9月23日(土) 参加者 21組 62 人

秋の教室 10月28日(土)、11月25日(土)、12月9日(土) 参加者 16組 47 人

冬の教室 1月27日(土)、2月24日(土)、3月10日(土) 参加者 11組 34 人

内容：1回目星座のお話、2回目プラネタリウム見学

3回目天文工作

天文工作：春 星座傘、夏 簡易分光器

秋 ソーラーカー、冬 ミニ天体望遠鏡

・市民天体写真展 11月2日(木)～11月30日(木)

1階エントランスホール 参加作品数 16 点



4. 移動天文車運営事業

(1) 自主事業

・サンデー太陽観望会：市民公園

毎月第4日曜日（13:30～15:00）

参加者 毎回 約100人

・月面を見る会：市民公園

5月13日(土) 参加者 16人（曇天）



(2) 派遣事業

20名以上の団体からの要請により市内へ出動し、観望会を実施（曇天、雨天時は天文教室を開催）。運営には天文ボランティア（現在69名登録）が協力。

(3) 連続天文講座

天文ボランティア養成のための講座。受講者9人。受講後全員がボランティア登録。

(4) 調査研究

太陽黒点の観測。太陽プロミネンス（紅炎）のVTR収録と写真撮影など。

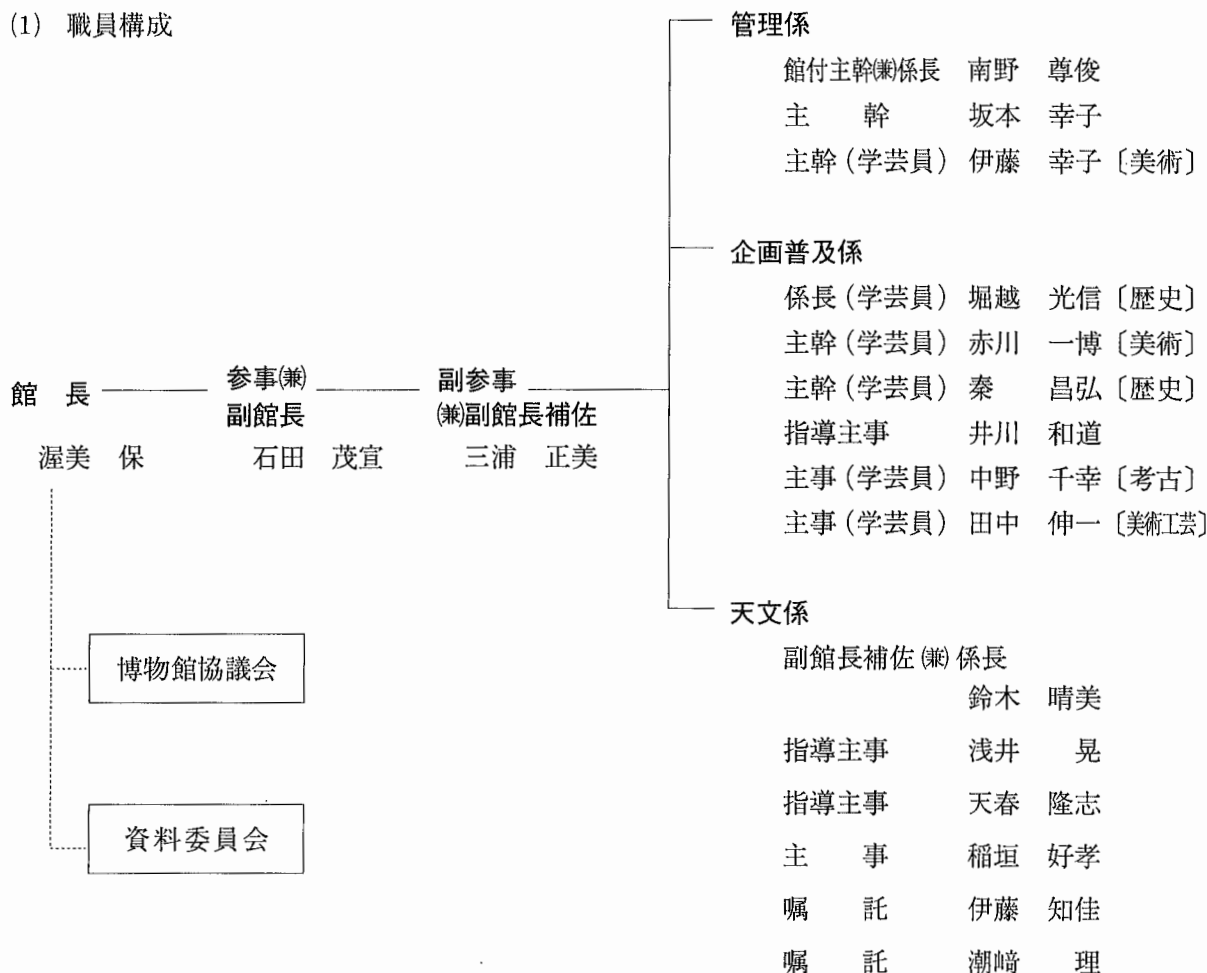
○月別稼働状況（申込み件数：天候不順による繰り延べ分も含む）

月	出動 依頼数	実施回数	天文教室 実施回数	中止回数	観望会 参加人数	天文教室 参加人数	参加者総計	天文指導員 参加延人数
4月	5	4	0	1	377	0	377	28
5月	6	4	1	1	287	40	327	20
6月	5	2	1	2	410	122	532	10
7月	11	11	0	0	880	0	880	60
8月	19	16	1	2	1,076	40	1,116	64
9月	8	5	1	2	745	32	777	17
10月	10	7	1	2	669	80	749	23
11月	14	10	2	2	4,296	260	4,556	58
12月	11	10	0	1	333	0	333	32
1月	5	3	0	2	326	0	326	8
2月	3	3	0	0	240	0	240	8
3月	9	4	1	4	193	20	213	15
計	106	79	8	19	9,832	594	10,426	343

Ⅱ. 管理・運営

1. 組 織 （平成13年3月末現在）

(1) 職員構成



(2) 事務分掌

〔管理係〕

- ① 博物館事業の調整及び運営に関すること。
- ② 調査、統計及び報告に関すること。
- ③ 博物館協議会に関すること。
- ④ 施設の維持管理及び館内の秩序維持に関すること。
- ⑤ 施設の使用許可に関すること。
- ⑥ 観覧券の発売及び入館者の受付、案内等に関すること。
- ⑦ 館の庶務に関すること。

〔企画普及係〕

- ① 特別展示の企画及び開催に関すること。
- ② 常設展示及び特別展示の利用者への説明、指導等に関すること。
- ③ 博物館資料の収集、保管、展示、貸出及び利用に関すること。
- ④ 博物館資料の調査研究及び報告書の刊行頒布等に関すること。
- ⑤ 講演会、講習会、研究会等の開催に関すること。

- ⑥ 博物館資料の購入、受贈及び受託に関すること。
 ⑦ 博物館の広報に関すること。

〔天文係〕

- ① プラネタリウムの映写及び天体観測に関すること。
 ② 天文知識の普及及び啓発に関すること。
 ③ 天文資料の収集、保管、展示及び調査研究に関すること。
 ④ 移動天文車に関すること。

2. 予 算 (平成12年度)

〔歳 入〕

(単位：千円)

科 目		当初予算額
使用料及び手数料 使用料 教育使用料 社会教育使用料	博物館使用料	博物館観覧料 プラネタリウム観覧料 講座室使用料 特殊器具使用料
財産収入 財産売払収入 物品売払収入 物品売払収入	市史等売払収入	
諸収入 雑 入 雑 入 雑 入	博物館委託販売手数料他	
計		

〔歳 出〕

(単位：千円)

科 目	当初予算額	管理運営	調査研究	展示開催	資料収集	教育普及	プラネタリウム運営	天文車運営
報 酬	474	474						
賃 金	6,165	2,913	1,855	1,397				
報 償 費	9,013		10	7,899	150	350	574	30
旅 費	3,463	177	378	2,768	52		88	
需 用 費	65,529	36,277	1,112	23,389	395	400	3,828	128
役 務 費	7,696	1,902		4,133		1,491	170	
委 託 料	181,762	109,053	300	28,850	2,499	152	40,570	338
使 用 料 及 賃 借 料	10,578	3,638		50	840		6,050	
工事請負費	150	150						
備 入 品 費	10,396		300		10,000			96
負 担 金 補 助 及 交 付 金	16,664	101	39	16,514				10
計	311,890	154,685	3,994	85,000	13,936	2,393	51,280	602

3. 博物館協議会

四日市市立博物館協議会は、博物館の運営に関して館長の諮問に応じるとともに、館長に対して意見を述べる機関として、博物館法及び四日市市立博物館条例の規定に基づき設置されるもので、平成5年6月1日付けで委員17人（定数20人）を委嘱（任期2年）して発足。平成12年度委員は下表のとおり。なお平成12年度協議会は2回開催された。

●第1回協議会

開催日 平成12年8月29日(火) 午後1時30分～
場 所 博物館講座室
議 題 (1) 12年度事業実施状況

●第2回協議会

開催日 平成13年2月27日(火) 午後2時30分～
場 所 博物館講座室
議 題 (1) 12年度事業実施状況
(2) 13年度事業計画

〔四日市市立博物館協議会委員〕

平成13年3月末現在

区分	氏 名	職 名
学校教育関係	羽田 光行 草薙 明 杉谷 惇子 赤根 孝一 小出 正章	四日市市小学校長会代表（羽津小学校長） 四日市市中学校長会代表（南中学校長） 四日市市公立幼稚園長会長（川島幼稚園長） 三重県北勢地区高等学校代表（四日市高等学校長） 私立学校代表（暁小学校長）
社会教育関係	宇佐美幸子 樋口久美子 宮崎 庄司	四日市市PTA連絡協議会代表（書記） 四日市市子供会育成者連絡協議会代表（会計） 四日市市自治会連合会代表（副会長）
学識経験者	石田 昇三 鈴木 裕 熊澤 眞清 播磨 良紀 鈴木 美好 伊藤 久嗣 松屋 文子 斎藤 好子	四日市市文化財保護審議会代表（会長） 報道機関（市政記者クラブ）代表（朝日新聞四日市支局長） 四日市商工会議所（文化・観光委員会委員長） 四日市大学環境情報学部助教授（日本中世史） 三重県立津高等学校教諭（天文） 三重県立博物館長 四日市市文化振興財団理事（四日市大学短期大学部非常勤講師） 三重大学医学部助教授
ボランティア	久保村秀高 田中 淑子 伊藤 正昭 内田 晴郎	四日市市立博物館ボランティアの会代表（解説） 四日市市立博物館ボランティアの会代表（解説） 四日市市立博物館ボランティアの会代表（古文書） 四日市市立博物館ボランティアの会代表（天文）

4. 利用状況（平成12年4月1日～平成13年3月31日）

(1) 常設展観覧者数

（上段：月計、下段：累計、単位：人）

月	開館 日数	有 料 観 覧 者												無 料 観 覧 者										観 覧 者 合 計	
		個 人			団 体 (20%割引)			減 免 (50%割引)			減免 (50% 割引の団体)			有料 入館 者計	小 中		園 児		他団体		幼 児	招 待 券	引 率 者		舞 入 館 計
		一般	高 大	小 中	一般	高 大	小 中	一般	高 大	小 中	一般	高 大	小 中		校	人 数	園	人 数	数	人 数					
4	26	932	41	109	937		41	8		1				2,069					1	52	47	658		757	2,826
5	27	1,195	78	164	2,953	6	70	12						4,478	6	430	2	79			110	663		1,282	5,760
	53	2,127	119	273	3,890	6	111	20	0	1	0	0	0	6,547	6	430	2	79	1	52	157	1,321	0	2,039	8,586
6	26	608	57	117	22			8		4				816	4	73	23	914			74	137		1,198	2,014
	79	2,735	176	390	3,912	6	111	28	0	5	0	0	0	7,363	10	503	25	993	1	52	231	1,458	0	3,237	10,600
7	27	1,016	132	336	5		20	9	2	2	7	10		1,539	11	523	11	587	1	16	196	553		1,875	3,414
	106	3,751	308	726	3,917	6	131	37	2	7	7	10	0	8,902	21	1,026	36	1,580	2	68	427	2,011	0	5,112	14,014
8	26	701	147	615				5						1,468							131	443		574	2,042
	132	4,452	455	1,341	3,917	6	131	42	2	7	7	10	0	10,370	21	1,026	36	1,580	2	68	558	2,454	0	5,686	16,056
9	26	403	47	113	26			4		1				594	3	152					53	314		519	1,113
	158	4,855	502	1,454	3,943	6	131	46	2	8	7	10	0	10,964	24	1,178	36	1,580	2	68	611	2,768	0	6,205	17,169
10	27	680	45	76		20	251	12		1				1,085	7	580	4	81	1	11	43	311		1,053	2,138
	185	5,535	547	1,530	3,943	26	382	58	2	9	7	10	0	12,049	31	1,758	40	1,661	3	79	654	3,079	0	7,258	19,307
11	24	1,115	73	31	31			24						1,274	8	737	1	20			25	617		1,399	2,673
	209	6,650	620	1,561	3,974	26	382	82	2	9	7	10	0	13,323	39	2,495	41	1,681	3	79	679	3,696	0	8,657	21,980
12	22	368	35	136	29		38	10		1				617	1	17					151	55		223	840
	231	7,018	655	1,697	4,003	26	420	92	2	10	7	10	0	13,940	40	2,512	41	1,681	3	79	830	3,751	0	8,880	22,820
1	24	863	30	388	8		12	10		3				1,314	12	699	1	18			461	334	1	1,513	2,827
	255	7,881	685	2,085	4,011	26	432	102	2	13	7	10	0	15,254	52	3,211	42	1,699	3	79	1,291	4,085	1	10,393	25,647
2	25	562	16	168	32	96	83	3		2				962	21	1,173					196	186	13	1,568	2,530
	280	8,443	701	2,253	4,043	122	515	105	2	15	7	10	0	16,216	73	4,384	42	1,699	3	79	1,487	4,271	14	11,961	28,177
3	27	962	25	63				27		2				1,079	4	224	4	87			48	351		710	1,789
計	307	9,405	726	2,316	4,043	122	515	132	2	17	7	10	0	17,295	77	4,608	46	1,786	3	79	1,535	4,622	14	12,671	29,966

(2) 特別展観覧者数

(上段：月計、下段：累計、単位：人)

月	開館 日数	有 料 観 覧 者												無 料 観 覧 者										観 覧 者 合 計	
		個 人			団 体 (20%割引)			減 免 (50%割引)			減 免 (50% 割引の団体)			有料 入館 者計	小 中		園 児		他団体		幼 児	招 待 券	引 率 者		舞 入 館 者 計
①	10	368	21	86										475							37	404		441	916
②	29	2,091	122	204	5,119	7	118	28						7,689	5	353	1	34	1	52	159	1,412	4	2,014	9,703
	39	2,459	143	290	5,119	7	118	28	0	0	0	0	0	8,164	5	353	1	34	1	52	196	1,816	4	2,455	10,619
③	25	2,643	303	510		31		16	2	6	13	22		3,546	11	667	31	1,564	2	26	405	1,390	1	4,053	7,599
	64	5,102	446	800	5,119	38	118	44	2	6	13	22	0	11,710	16	1,020	32	1,598	3	78	564	3,206	5	6,471	18,218
④	38	977	87	921	4		20	12						2,021	2	174					247	1,265		1,686	3,707
	102	6,079	533	1,721	5,123	38	138	56	2	6	13	22	0	13,731	18	1,194	32	1,598	3	78	811	4,471	5	8,157	21,925
⑤	22	585	51	107	26		87	10		2				868	6	495					63	580	12	1,150	2,018
	124	6,664	584	1,828	5,149	38	225	66	2	8	13	22	0	14,599	24	1,689	32	1,598	3	78	874	5,051	17	9,307	23,943
⑥	32	2,786	121	45	22	23		45		2	2	1		3,047	10	858			1	11	37	1,589	9	2,504	5,551
	156	9,450	705	1,873	5,171	61	225	111	2	10	15	23	0	16,741	34	2,547	32	1,598	4	89	911	6,640	26	11,811	29,494
⑦	47	2,766	47	1,111	35		81	37		13				4,090	18	1,033	7	152			2,336	1,066	5	4,592	8,682
	203	12,216	752	2,984	5,206	61	306	148	2	23	15	23	0	20,831	52	3,580	39	1,750	4	89	3,247	7,706	31	16,403	38,176
⑧	18	1,111	18	23		37		17						1,206	5	252					26	791		1,069	2,275
	221	13,327	770	3,007	5,206	98	306	165	2	23	15	23	0	22,037	57	3,832	39	1,750	4	89	3,273	8,497	31	17,472	40,451
⑨	6	758	20	24	2			16						820							7	159		166	986
計	227	14,085	790	3,031	5,208	98	306	181	2	23	15	23	0	23,762	57	3,832	39	1,750	4	89	3,280	8,656	31	17,638	41,437

①「新 弥生紀行 - 北の森から南の海へ -」

2月24日(木)～4月11日(火)のうち

4月1日～4月11日分

②「粋と艶、旅のあこがれ MOA美術館所蔵浮世絵版画名品展」

4月22日(土)～5月23日(火)

③「2000 イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」

6月18日(日)～7月16日(日)

④「はるかなる星空の世界 ～ 宇宙を観る ～」

7月29日(土)～9月10日(日)

⑤「四日市市埋蔵文化財展 2000」

9月16日(土)～10月9日(祝)

⑥「～ 王朝の精華 ～ 近衛家と陽明文庫の至宝」

10月21日(土)～11月26日(日)

⑦「親子で遊ぶ - 『木とのふれあいワールド』展」

12月7日(木)～2月4日(日)

⑧「文豪丹羽文雄その人と文学 - ひと我を非情の作家と呼ぶ -」

2月22日(木)～3月13日(火)

⑨「みやびの情景・京の日本画 - 京都市立芸術大学の伝統と革新 -」

3月25日(日)～5月6日(日)のうち

3月25日～3月31日分

(3) プラネタリウム観覧者数

(上段：月計、下段：累計、単位：人)

月	投映回数	有 料 観 覧 者													無 料 観 覧 者										観覧者合計	
		個 人			団 体 (20%割引)			減 免 (50%割引)			減免 (50% 割引の団体)			特別 放映	有料 入館 者計	小 中		園 児		他団体		幼 児	招 待 券	引 率 者		舞 臺 入 館 者
		一般	高大	小中	一般	高大	小中	一般	高大	小中	一般	高大	小中			校	人数	園	人数	数	人数					
4	65	278	57	118	6		16	3						478					1	52	60	281		393	871	
5	95	570	101	209	46		85	4		1			92	1,108	5	353	3	163			70	63	11	660	1,768	
	160	848	158	327	52	0	101	7	0	1	0	0	0	92	1,586	5	353	3	163	1	52	130	344	11	1,053	2,639
6	82	450	47	170	24			2					84	777	1	8	37	1,688			105	34		1,835	2,612	
	242	1,298	205	497	76	0	101	9	0	1	0	0	0	176	2,363	6	361	40	1,851	1	52	235	378	11	2,888	5,251
7	102	778	104	375	7		27	4		3	46	29		221	1,594	11	635	26	1,473	2	26	218	72	1	2,425	4,019
	344	2,076	309	872	83	0	128	13	0	4	46	29	0	397	3,957	17	996	66	3,324	3	78	453	450	12	5,313	9,270
8	108	1,387	147	1,060	19		91	18	3	4				50	2,779						382	517		899	3,678	
	452	3,463	456	1,932	102	0	219	31	3	8	46	29	0	447	6,736	17	996	66	3,324	3	78	835	967	12	6,212	12,948
9	75	605	75	255				9						150	1,094	5	345				141	82		568	1,662	
	527	4,068	531	2,187	102	0	219	40	3	8	46	29	0	597	7,830	22	1,341	66	3,324	3	78	976	1,049	12	6,780	14,610
10	98	508	81	247	20		645	2		1				50	1,554	12	930	5	136			134	57	40	1,297	2,851
	625	4,576	612	2,434	122	0	864	42	3	9	46	29	0	647	9,384	34	2,271	71	3,460	3	78	1,110	1,106	52	8,077	17,461
11	80	380	36	162	52		256	2						37	925	9	724	3	131	1	10	92	60	13	1,030	1,955
	705	4,956	648	2,596	174	0	1,120	44	3	9	46	29	0	684	10,309	43	2,995	74	3,591	4	88	1,202	1,166	65	9,107	19,416
12	61	533	59	300	101		119	5						201	1,318	2	120	2	51			253	78	4	506	1,824
	766	5,489	707	2,896	275	0	1,239	49	3	9	46	29	0	885	11,627	45	3,115	76	3,642	4	88	1,455	1,244	69	9,613	21,240
1	85	942	79	501			131	7		1				1,661	5	398	2	79			488	150	7	1122	2,783	
	851	6,431	786	3,397	275	0	1,370	56	3	10	46	29	0	885	13,288	50	3,513	78	3,721	4	88	1,943	1,394	76	10,735	24,023
2	94	787	77	308	2	30	83	11		3				57	1,358	13	869	4	208			373	42	8	1,500	2,858
	945	7,218	863	3,705	277	30	1,453	67	3	13	46	29	0	942	14,646	63	4,382	82	3,929	4	88	2,316	1,436	84	12,307	26,881
3	90	736	52	339	8		12	29		4	21			66	1,267	5	367	7	193			460	149		1,169	2,436
計	1,035	7,954	915	4,044	285	30	1,465	96	3	17	67	29	0	1,008	15,913	68	4,749	89	4,122	4	88	2,776	1,585	84	13,476	29,317

5. 関係法規

四日市市立博物館条例

(趣旨)

第1条 この条例は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2及び博物館法(昭和26年法律第285号。以下「法」という。)第18条の規定に基づき、博物館の設備及び管理について必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 本市は、自然科学及び人文科学に関する資料を収集し、保管し、及び展示して市民の利用に供するとともに、プラネタリウムによる天体運行等の映写を行い、市民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、四日市市立博物館(以下「博物館」という。)を四日市市安島一丁目3番16号に設置する。

(事業)

第3条 博物館は、前条の設置目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 歴史、考古、民俗、美術工芸、天文等に関する実物、複製、複写、模型、図書、図表、写真、フィルム、レコード等の資料(以下「博物館資料」という。)を収集し、保管し、展示し、及び利用に供すること。
- (2) 博物館資料の利用者に対する説明、助言及び指導に関すること。
- (3) 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究に関すること。
- (4) 博物館資料の保管、展示等に関する技術的研究に関すること。
- (5) 博物館資料に関する解説書、目録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
- (6) 博物館資料に関する講演会、研究会等を開催すること。
- (7) 他の博物館、図書館、学校その他関係機関との連絡及び協力に関すること。
- (8) プラネタリウムによる天文運行等の映写及び天文観測の指導に関すること。
- (9) その他必要な事業

(観覧料)

第4条 博物館資料の展示会場へ入場しようとする者及びプラネタリウムの映写を観覧しようとする者は、別表第1に定める観覧料を納付しなければならない。

- 2 前項に定める観覧料の額は、別表第1に定める額に消費税及び地方消費税に相当する額を加算した額とする。この場合において、その額に10円未満の端数が生じたときは、これを四捨五入するものとする。
- 3 前項の規定にかかわらず、中学生以下及び心身障害者で、受付において身体障害者手帳、療育手帳又はそれらに代わるものを提示した者の観覧料の額は、別表1に定める額とする。

(特別展示室等の使用)

第5条 四日市市教育委員会(以下「委員会」という。)は、第2条の設置目的に反せず、第3条の事業に支障のない範囲内において、展示発表等のため、博物館の特別展示室及び講座室(以下「特別展示室等」という。)の使用を許可することができる。

- 2 前項の規定により、特別展示室等を使用しようとする者は、あらかじめ委員会の許可を受けなければならない。
- 3 前項の許可を受けた者は、別表第2に定める使用料を規則で定める期限までに納付しなければならない。
- 4 前項に定める使用料の額は、別表第2に定める額に、消費税及び地方消費税に相当する額を加算した額とする。この場合において、その額に10円未満の端数が生じたときは、これを四捨五入するものとする。

(特別利用の許可等)

第6条 博物館資料の熟覧、模写、模造、撮影等をしようとする者は、あらかじめ委員会の許可を受けなければならない。

- 2 前項の許可を受けた者は、2,000円の範囲内において規則に定める手数料を納付しなければならない。

(館外貸出し)

第6条の2 博物館資料は、次の各号のいずれかに該当するときは、館外への貸出しをしない。ただし、委員会は、他の博物館、図書館、学校等適当と認めたものについて、博物館資料の館外貸出しを許可することができる。

- (1) 館外貸出しによって博物館資料の保存に影響を及ぼすおそれがあると委員会が認めたとき。
- (2) 現に博物館資料が展示されているとき。
- (3) その他委員会が博物館資料の館外貸出しをすることを不適当と認めたとき。

(入館等の制限)

第7条 委員会は、次の各号のいずれかに該当すると認めたときは、博物館への入館を拒否し、若しくは退館を命じ、又は第5条第2項及び第6条第1項の許可をしない。

- (1) 公安、風俗その他公益を害するおそれがあるとき。
- (2) 施設、付属設備等を損傷するおそれがあるとき。
- (3) その他委員会において管理上支障があると認めたとき。

制定 平成5年3月30日 条例第16号

(観覧料、使用料及び手数料の減免)

第8条 市長は、特に必要があると認めたときは、観覧料、使用料及び手数料を減額又は免除することができる。

(観覧料、使用料及び手数料の還付)

第9条 既納の観覧料、使用料及び手数料は、還付しない。ただし、市長が特別の事由があると認めたときは、その全部又は一部を還付することができる。

(権利の譲渡等の禁止)

第10条 第5条第2項、第6条第1項及び第6条の2の規定により許可を受けた者(以下「使用者」という。)は、その権利を他に譲渡し、又は転貸してはならない。

(許可の取消し等)

第11条 委員会は、使用者が次の各号のいずれかに該当すると認めたときは、許可の条件を変更し、又は使用若しくは利用を停止し、若しくは許可を取り消すことができる。

- (1) この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。
- (2) 許可の条例に違反したとき。
- (3) 偽りその他不正な手段により許可を受けたとき。
- (4) その他委員会において特に必要があると認めたとき。

(特別の設備等)

第12条 使用者は、既存の設備を変更し、又は特別の設備を使用しようとするときは、あらかじめ委員会の承認を受けなければならない。(原状回復の義務)

第13条 使用者は、その使用若しくは利用を終了したとき又は第11条の規定により使用若しくは利用を停止され、若しくは許可を取り消されたときは、直ちに原状に回復しなければならない。

2 使用者が前項の義務を履行しないときは、委員会においてこれを執行し、使用者からその費用を徴収する。

(損害賠償)

第14条 使用者は、使用若しくは利用中に建物、附属施設等を損傷又は滅失したときは、これを原状に回復し、又はその損害を賠償しなければならない。ただし、市長が特別の事由があると認めたときは、その全部又は一部を免除することができる。

(博物館協議会)

第15条 博物館の運営に関し、館長の諮問に応じるとともに、館長に対して意見を述べる機関として、法第20条第1項の規定に基づき、博物館に四日市市立博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

- 2 協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者から、委員会が任命する。
- 3 協議会の委員の定数は、20人以内とする。
- 4 協議会の委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委任)

第16条 この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、委員会が別に規則で定める。

附則

(施行期日)

- 1 この条例は、平成5年4月1日から施行する。ただし、第3条第1号(博物館資料の展示及び利用に供する部分に限る。)、第2号及び第8号ならびに第4条から第14条までの規定は規則で定める日から、次項の規定は平成5年9月1日から施行する。

(四日市市立郷土資料館条例の廃止)

- 2 四日市市立郷土資料館条例(昭和45年四日市市条例第38号)は、廃止する。

附則 この条例は、平成12年4月1日から施行する。

別表第1(第4条関係)

区 分	博物館常設展示 1人1回につき	プラネタリウム 1人1回につき	博物館特別展示及び プラネタリウム特別番組 1人1回につき
一 般	200円	500円	2,000円の範囲内で 委員会が定める額
高・大学生	150円	350円	
小・中学生	100円	200円	

備考 (1) 心身障害者で、受付において身体障害者手帳、療育手帳又はそれらに代わるものを提示した者に限り、観覧料は、規定料金の100分の50の額とする。

(2) 20人以上の団体は、1人1回につき規定料金の100分の80の額とする。

別表第2(第5条関係)

区 分	午 前	午 後	全 日
	午前9時から 正午まで	午後1時から 午後5時まで	午前9時から 午後5時まで
特別展示室	—	—	30,000円
講 座 室	8,000円	12,000円	20,000円

四日市市立博物館条例施行規則

制定 平成5年3月31日 教委規則第5号

(趣旨)

第1条 この規則は、四日市市立博物館条例（平成5年四日市市条例第16号。以下「条例」という。）第16条の規定に基づき、条例の施行について必要な事項を定めるものとする。

(開館時間)

第2条 四日市市立博物館（以下「博物館」という。）の開館時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、四日市市教育委員会（以下「委員会」という。）が特に必要があると認めたときは、これを変更することができる。

(休館日)

第3条 博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、委員会が特に必要と認めたときは、これを変更し、又は臨時に休館することができる。

- (1) 水曜日。ただし、その日が国民の休日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日に当たるときは、その翌日とする。
- (2) 12月29日から翌年1月3日まで

(観覧の手続)

第4条 博物館資料の展示会場に入場しようとする者及びプラネタリウムの映写を観覧しようとする者は、観覧料の納入の際に観覧券の交付を受け、展示室及びプラネタリウム室の入口においてこれを係員に提示又は提出しなければならない。

(使用許可の申請)

第5条 条例第5条第2項の規定により、特別展示室等の使用の許可を受けようとする者は、四日市市立博物館使用許可申請書（第1号様式。以下「申請書」という。）により委員会に申請しなければならない。

2 前項の申請の受付は、使用しようとする日（引き続き2日以上使用しようとする場合は、その最初の日という。以下「使用日」という。）の属する月の初日前6月からとする。

3 前項の規定にかかわらず、次の各号の一に該当する場合は、前項に定める期間前に受付できるものとする。

- (1) 四日市市又は委員会が行う事業又は主催する行事に使用するとき。
- (2) その他委員会が特に必要と認めたとき。

4 第1項に規定する申請書の受付時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、休館日の受付は行わない。

(使用の許可)

第6条 委員会は、前条第1項の使用許可の申請について適当と認めたときは、使用の許可を決定し、四日市市立博物館使用許可書（第2号様式。以下「許可書」という。）を申請者に交付するものとする。

2 博物館の使用について許可を受けた者（以下「使用者」という。）は、博物館使用の際に、前項の許可書を係員に提示し、指示を受けなければならない。

(使用の変更及び取消し)

第7条 使用者は、許可書に記載された事項を変更し、又は施設の使用を取り消そうとするときは、四日市市立博物館使用変更（取消し）許可申請書（第3号様式）に許可書を添えて委員会に提出しなければならない。

2 委員会は、前項の規定により使用の変更又は取消しを許可したときは、四日市市立博物館使用変更（取消し）許可書（第4号様式。以下「変更（取消し）許可書」という。）を申請者に交付するものとする。

(附属設備の名称及び使用料の額)

第8条 博物館の附属設備の使用料の額は、別表第1に定める額に消費税及び地方消費税に相当する額を加算した額とする。この場合において、その額に10円未満の端数が生じたときは、これを四捨五入するものとする。

(使用料の納付)

第9条 使用者は、使用の許可と同時に使用料を納付しなければならない。

2 官公署が使用する場合にあっては、前項の規定にかかわらず、別に納付期間を定めることができるものとする。

(観覧料の減免)

第10条 条例第8条の規定に基づく観覧料の減額又は免除の範囲は、次のとおりとする。

- (1) 四日市市及び三重郡に所在する学校教育法（昭和22年法律第26号）に規定する小学校、中学校の児童、生徒が学校教育の一環として教職員に引率されて常設展示、プラネタリウム及び特別展示を観覧するとき。 10割
- (2) 博物館が開催する特別展示を観覧料を納付して観覧したものが、引き続き常設展示を観覧するとき。 10割
- (3) その他委員会が特別の事由があると認めた時。 その都度委員会が定める割合

2 前項第1号に定める観覧料の減免を受けようとする者は、四日市市立博物館観覧料減免申請書（第5号様式）に、減免を必要とする理由を記し、委員会に申請しなければならない。

(優待券等)

第11条 委員会が特に必要と認めたときは、優待券、招待券及び特別展示前売観覧券を発行することができる。

(使用料の還付)

第12条 条例第9条ただし書の規定により使用料を還付する場合及び還付の割合については、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 災害等特別の事由により、使用者の責めによらない場合において使用できなかったとき。 10割
- (2) 使用者が使用日の前7日以前に使用許可の取消しを申請し、許可されたとき。 5割

2 使用者が第7条の規定により博物館の使用の変更を許可された場合において、既納の使用料に過納金が生じたときは、これを還付するものとする。

3 前2項の規定により使用料の還付を受けようとする者は、四日市市立博物館使用料還付申請書（第6号様式）に第1項第1号の場合にあっては許可書と使用料領収書、第1項第2号及び前項の場合にあっては変更（取消し）許可書と使用料領収書を添えて委員会に申請しなければならない。

4 委員会は、前項の申請を受理し、還付を決定したときは、四日市市立博物館使用料還付決定通知書（第7号様式）を申請者に交付するものとする。

(使用者の遵守事項)

第13条 博物館に入館する者、使用者及び条例第6条第1項の規定により許可を受けた者（以下「使用者等」という。）は、条例及びこの規則に定めるもののほか、次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

い。

- (1) 使用を許可されていない施設を使用し、又は立ち入らないこと。
- (2) 所定の場所以外で喫煙し、又は火気を使用しないこと。
- (3) 許可を受けずに張り紙をし、又はくぎ類を打ち、建物その他の物品をき損又は汚損するおそれのある行為をしないこと。
- (4) 騒音を発し、暴力を用いるなど他人に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (5) その他委員会が定める事項及び係員の指示に従うこと。

(職務上の立入り)

第14条 使用者は、係員の職務上の立入りを拒んではならない。

(施設等の損傷の届出)

第15条 使用者等は、施設、附属設備等を損傷又は滅失したときは、直ちに理由を付して委員会に届け出なければならない。

(使用後の届出及び点検)

第16条 使用者等は、条例第13条の規定により施設、設備等を原状に復したときは、速やかに委員会に届け出るとともに、その点検を受けなければならない。

(特別利用の許可の申請)

第17条 条例第6条第1項の規定に基づき、特別利用の許可を受けようとするものは、四日市市立博物館資料特別利用許可(減免)申請書(第8号様式)を委員会に提出しなければならない。

2 委員会は特別利用の許可をしたときは、四日市市立博物館資料特別利用許可書(第9号様式)を交付するものとする。

3 四日市市立博物館資料特別利用許可書の交付を受けたものは、直ちに条例第6条第2項に基づく手数料を納付しなければならない。

4 前項に定める手数料の額は、別表第2に定める額に消費税及び地方消費税に相当する額を加算した額とする。この場合において、その額に10円未満の端数が生じたときは、これを四捨五入するものとする。

第18条 条例第8条の規定に基づく手数料の減額又は免除の範囲は、次のとおりとする。

- (1) 市、県又は国若しくは他の地方公共団体が行う教育、学術若しくは文化の事業又はこれらの事業の普及の用途に供することを目的とするとき 10割
- (2) 私立の博物館、図書館、学校等が行う教育又は研究の用途に供することを目的とするとき 10割
- (3) 主に学術研究の用途に供することを目的とするとき 10割
- (4) その他委員会が特別の事由があると認めたとき。

その都度委員会が定める割合

2 前項に定める使用料の減免を受けようとする者は、四日市市立博物館資料特別利用(減免)申請書(第8号様式)に、減免を必要とする理由を記し、委員会に申請しなければならない。

(特別利用の制限)

第19条 次の各号の一に該当するときは、特別利用の許可をしない。

- (1) 特別利用によって博物館の資料の保存に影響を及ぼすおそれがあると委員会が認めたとき。
- (2) 現に博物館資料が展示されているとき。
- (3) 寄託された博物館資料で寄託者の同意を得ていないとき。
- (4) 著作権がある博物館資料で著作権者の承諾を得ていないとき。
- (5) その他委員会が特別利用をすることが不適当と認めたとき。

(館外貸出しの許可等)

第20条 条例第6条の2ただし書きの規定により、博物館資料の館外貸

出しを受けようとするものは、あらかじめ四日市市立博物館資料館外貸出許可申請書(第10号様式)を委員会に提出し、その許可を受けなければならない。

2 委員会は、博物館資料の館外貸出しを認めた場合は、四日市市立博物館資料館外貸出許可書(第11号様式)を交付するものとする。

3 博物館資料の館外貸出しの期間は、1月以内とする。ただし、委員会が特に必要があると認めたときは、この限りでない。

(協議会の委員長及び副委員長)

第21条 条例第15条に規定する四日市市立博物館協議会(以下「協議会」という。)に、委員長及び副委員長を置き、それぞれ委員の互選によって選出する。

2 委員長及び副委員長の任期は、委員としての在任期間とする。

3 委員長は、協議会の会務を総理し、協議会を代表する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は欠けたときは、その職務を代理する。

(協議会の会議)

第22条 協議会の会議(以下「会議」という。)は、定例会及び臨時会とし、定例会は年2回、臨時会は必要に応じて開催する。

2 会議は、委員長が召集し、委員長がその議長となる。

3 会議は、委員の過半数が出席しなければ、これを開くことができない。

4 会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第23条 協議会の庶務は博物館において処理する。

(委任)

第24条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、平成5年4月1日から施行する。ただし、第2条から第20条までの規定は、条例附則ただし書に規定する規則で定める日から、次項の規定は、平成5年9月1日から施行する。

(四日市市立郷土資料館条例施行規則の廃止)

2 四日市市立郷土資料館条例施行規則(昭和45年教育委員会規則第5号)は、廃止する。

附 則

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

別表第1(第8条関係)

区 分	使用料(一回一式)
1 6 ミ リ 映 写 機	2,000円
ス ラ イ ド 映 写 機	1,000円
プ ロ ジ ェ ク タ ー	1,000円

別表第2(第17条関係)

区 分	手数料(一点一日)
熟 覧	300円
模 写	1,000円
拓 本	1,000円
撮 影	1,000円

Ⅲ. 施設概要

●設計概要

敷地は、旧四日市工業高校跡地の一角で、街区には都市公園を介して地場産業振興センター、アムスクエアがあり、それらとの調和を図る必要があった。そこで、形態的には都市公園を介してオープンなアトリウムで呼応しあう関係を生み出し、色調的にはアムスクエアのグレイッシュピンクと補色関係にあり色の映える淡緑青色を基調としている。

外観デザインとしては、博物館とプラネタリウムという複合した機能を持つ建物の性格上、「過去」（歴史）、「現在」、「未来」（宇宙）の調和をテーマとしている。そのことは、基壇部において花崗岩のジェットパーナー仕上げで歴史の積層をイメージし、胴部において割肌タイルにより工業化が進んだ現代だからこそ逆に求められる手造り的なあたたかさ、やさしさを表現し、頂部においてステンレスの球体を一部露出させ、未来的、宇宙的なイメージを喚起して、それらの三層構成による対比と調和を図っている。また、都市公園に面する東側はボリュームの大きさからくる威圧感を低減するために、面を分節化し、水平線を強調したガラスのカーテンウォール、地上の緑が階段状に延長した濃緑色の石貼部、太陽光線をイメージした黄色の垂直線、コンビナートのメタファーとしての金属のパイプや球体により、リズムカルで変化のある構成としている。

内部機能構成としては、地下部分に収蔵部門、1階にエントランス、2～4階に博物館部門、5、6階にプラネタリウム部門を収め、地上部分に5層吹抜のアトリウムを設けることにより積層化した施設の空間的な一体感を生み出す計画としている。また、都市公園に対してオープンな構成とし、それを借景として利用することで空間的な広がりを持たせている。

（石本建築事務所）



●工事概要

所在地 〒510 三重県四日市市安島一丁目
3番16号
「近鉄四日市駅」下車徒歩5分
電話 0593-55-2700 代表
FAX 0593-55-2704
テレホンサービス 0593-55-2705

施設規模 敷地面積 1,845.840㎡
建設面積 1,590.397㎡
延床面積 10,147.108㎡
建物構造

鉄骨鉄筋コンクリート造

地下2階地上6階

建物最高の高さ 38.075m

建物イメージ

歴史（石を用いた古典的な様式）

現代（石、土ものの自然素材と

金属、ガラスなどの組み

合わせによる新旧共存）

未来（金属板の仕上げ

=ブラネタリウム）

色彩イメージ

1F 海 青

2F 大地 橙

3F 草花 黄

4F 山脈 緑

5F 空（宇宙） シルバーメタリック

地域・地区

商業地域・防火地域

建蔽率100%（耐火）、容積率600%

主な室名と面積

・展示・教育部門 2,156.155㎡

常設展示室 2F 564.691㎡

// 3F 454.618㎡

特別展示室 4F 594.798㎡

ラウンジ 2～4F 281.02㎡

情報コーナー 1F 118.81㎡

講座室 1F 142.218㎡

・収蔵部門 1,256.230㎡

収蔵庫① B2F 243.29㎡

// 前室 B2F 38.88㎡

収蔵庫② B1F 282.17㎡（恒温恒湿）

収蔵庫③ B1F 384.496㎡

// 前室 B1F 76.086㎡

荷解室 1F 231.308㎡

・研究部門 430.207㎡

作業室 2F 60.464㎡

資料整理室 B1F 84.37㎡

文献資料室 3F 37.952㎡

資料評価室 4F 33.30㎡

くん蒸室 B1F 43.07㎡

スタジオ暗室 B1F 87.51㎡

ビデオ編集室 B1F 16.882㎡

会議室② 4F 37.952㎡

会議室③ 3F 28.707㎡

・ブラネタリウム部門 1,714.282㎡

客席（ドーム） 5F-6F 565.017㎡

天文学習室 5F 59.081㎡

天文展示コーナー 5F 194.763㎡

ブラネタリウム事務室 5F 59.326㎡

空調機械室 5F-6F 836.095㎡

・管理・一般部門 4,590.234㎡

事務室 3F 105.059㎡

館長室 2F 37.001㎡

会議室① 2F 50.422㎡

ミュージアムショップ 1F 28.723㎡

警備室 1F 20.812㎡

中央監視室 B2F 44.064㎡

設備機械室 B2F 466.19㎡

電気室、発電電気室 240.152㎡

倉庫、展示備品庫など 3,577.811㎡

ブラネタリウム（1,714㎡）

ドーム径 18.5m 傾斜型（傾斜度20度）

座席 164席

GSS ヘリオス（五藤光学研究所製）

7.4等星 25,000個の恒星が投影可能

分離型感星投影機 9台

スカイライン投影機（80+80シーン）
マルチイメージシステム
マルチサウンドシステム
全天周映画 可能
アストロビジョン70（10.パーフォーレーション）
ブラネタリウムとの同期可能（ショートフィルム）

主な施行業者名

建 築 ㈱鴻池組 三菱建設㈱

丸藤建設㈱

電 気 ㈱電工社 四日市電機㈱

設備機械 須賀工業㈱ タイダン㈱

三東工業所

ブラネタリウム ㈱五藤光学研究所

建築設計 ㈱石本建築事務所

展示設計 ㈱ササキ企画

展 示 商工美術㈱

展示映像 中部松下システム㈱

ハイビジョン 中部松下システム㈱

陶 壁 萬古環境造形体

設備概要

・空調設備

1. 空調熱源機器設備

①スクリーン冷凍機

（冷房能力293,000Kcal/H（97URST）

暖房能力 254,000Kcal/H） 2基

②スクリーン冷凍機用（空気熱交換器） 2基

送風機（低騒音型 3,400㎡/min） 3台

③蓄熱層 730㎡

2. 空調、換気及び排煙機器設備

①空調機

エアーハンドリングユニット 9基

パッケージ型空調機 30基

ファンコイルユニット 20基

全熱交換機 5基

②送、排風機

シロッコファン 2基

軸流ファン 8基

ラインファン 13基

消音ボックス付ラインファン 20基

デリバントファン 1基

排煙ファン 3基

排煙口 25基

3. その他機器

①フィルターユニット

外気新鮮空気処理ユニット 3基

②消音マフラーユニット 9基

③その他付属設備 一式

4. 空調配管設備

①空調用ポンプ 14基

②冷温水2次ポンプ可変速制御盤 1基

③冷水ヘッダー 2基

④温水 2基

⑤冷温水用防触装置 4基

⑥その他付属設備 一式

・給排水衛生設備

1. 給水設備

①ポンプ 揚水ポンプ 2基

②受水槽 有効容量 12.7㎡

（2分割・複合板） 1基

③高架水槽 有効容量 6.3㎡

（2分割・SUS444）保温付 1基

④電機湯沸器 貯湯量 10L 3基

貯湯量 20L 3基

壁掛型瞬間湯沸器 2基

⑤ウォータークーラー

壁埋込式、ステンレス製 2基

冷水能力 30L/ノ 2基

⑥その他付属設備 一式

2. 排水設備

公共下水道接続箇所

①湧水排水ポンプ 6基

②雑水排水ポンプ 2基

③雨水排水ポンプ 2基

・くん蒸設備（真空殺虫殺菌装置） 3.15㎡

・消防設備

①屋内消火栓ポンプ 1基

②屋内消火栓設備

屋内消火栓箱 12基

屋内消火栓箱（併設型） 4基

③連結散水設備 閉鎖型（8系統） 一式

④ハロン消火設備 7系統

（特別展示室、収蔵庫①②③、

前室、電気室、発電電気室） 一式

⑤救助袋 3-5階 6台

⑥自動火災報知設備

差動スボット感知器 6個

定温スボット感知器 14個

煙感知器 384個

炎感知器 4個

⑦非常放送設備 一式

⑧消火器 38本

⑨誘導灯設備 非難口誘導灯 54台

通路誘導灯 39台

客席誘導灯 22台

⑩その他付属設備

・防犯設備

①防犯設備 熱感センサー 46個

②監視カメラ 1-4階 カラードーム形 16台

CCD 1台

モニターテレビ 5台

③防火扉 47箇所

④防火・防災シャッター 32箇所

⑤排煙口 28箇所

・電気設備

①受電電圧 交流3相3線式 660V 60Hz

②変圧器

動力用

3相6.6KV/210V 300KVA 1台

3相6.6KV/210V 500KVA 1台

3相6.6KV/210V 150KVA 2台

3相6.6KV/4400V 500KVA 1台

電灯用

1相6.6KV/210V/105V 300KVA 2台

1相6.6KV/210V/105V 100KVA 1台

③自家発電機

6気筒4サイクルディーゼル機関

480Ps 1200rpm 1台

3相交流同期発電機 400KVA 6600V 1台

④電線路電圧 6600V 440V 210V 105V

⑤電気室 高圧配電盤 19面

動力制御盤 15面

電灯分電盤 21面

端子盤 12面

⑥低圧回路

⑦低圧負荷設備

電動機合計容量 1,123.023KW 130台

電灯コンセント合計容量 476KVA 2,115個

⑧直流電源装置

100V非常照明用 発電設備機器操作

用全自動サイリスター式整流器

（入力 交流3相 200V 60Hz

直流出力電流 50A 3相全波整流） 1面

蓄電池 ベースト式高率放電用鉛蓄電池

2V×54セル

⑨交流無停電電源装置

100V 中央監視装置用

商用同期常時インバーター給電方式

（交流入出力 単相2線式 100V 60Hz

出力容量 5KVA） 1台

⑩電気時計 水晶発信式 6回路

親時計 1台 子時計 41台

⑪放送設備 防災アンプ480W 20回路

⑫電話設備 デジタル電子交換機 一式

多機能電話機 15台

一般電話機 34台

⑬テレビ共聴設備 CATV引込（CTY）

⑭中央監視設備

SAVIC-NET50Iによる監視システム

・エレベーター

1.2号 乗用（展望用）定員17名 1150kg 90m/分

3号 乗用 定員11名 750kg 105m/分

4号 人荷用 定員67名 4400kg 30m/分

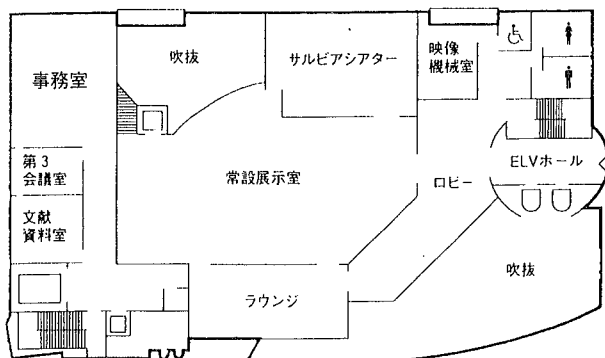
5号 乗用 定員11名 750kg 30m/分

・その他設備 昇降リフト（2トン） 1台

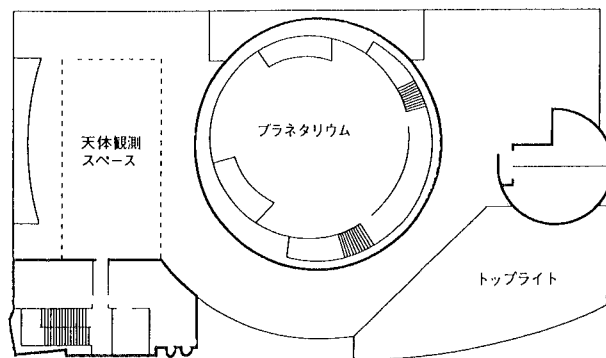
ゴンドラ（ガラス清掃） 2台

自動扉 4箇所

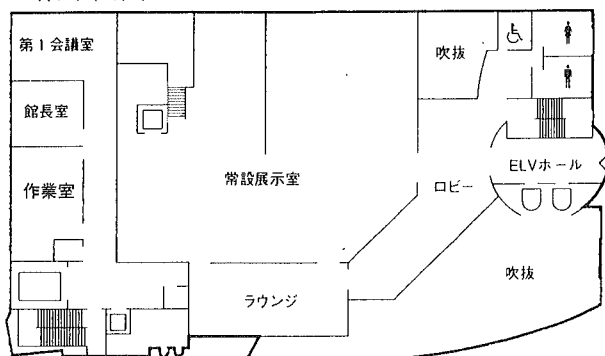
3階平面図



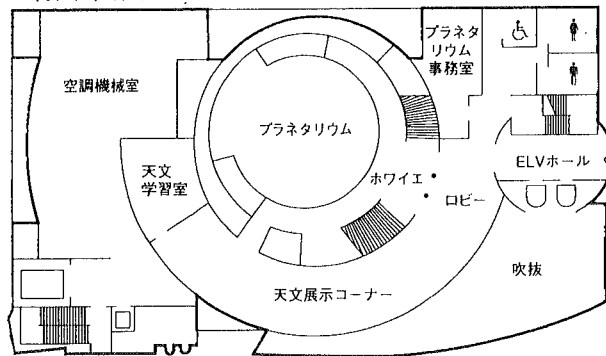
6階平面図



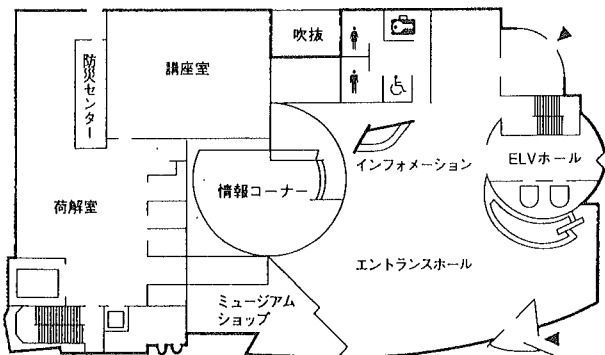
2階平面図



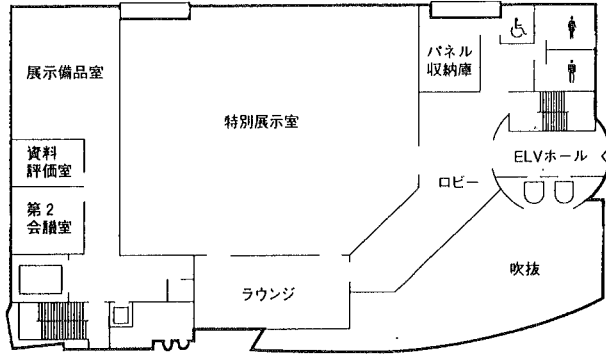
5階平面図



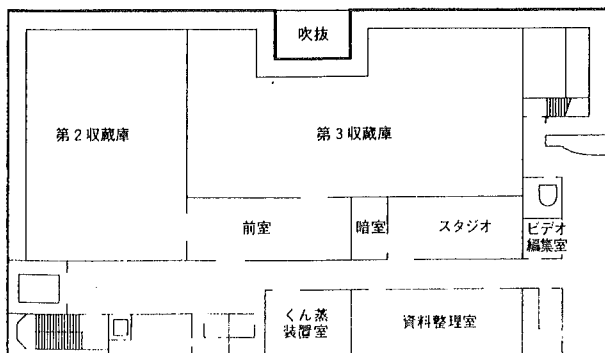
1階平面図



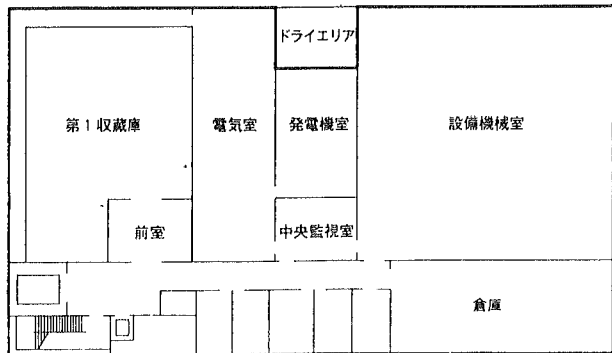
4階平面図



地下1階平面図



地下2階平面図



IV. 利用案内

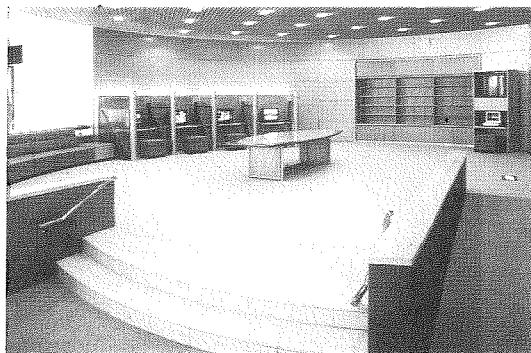
●博物館を彩る施設（無料利用できる部分）

□エントランス・ホール（1F）

入口を入ると5Fまで吹き抜けているアトリウムとシースルーエレベーターが目を引く。ここは誰でも入れる自由空間。喫煙コーナーもあり待ち合わせに最適な場所でもある。

□情報コーナー（1F）

4台のLDにより四季にわたり四日市各地に伝わる伝承行事を入館者が自由に観ることができる。また、歴史・自然・美術工芸などの書籍も自由に閲覧でき、インターネットによる市政情報検索が可能。



□ミュージアム・ショップ（1F）

入館の思い出となる記念品や市、博物館が刊行する図録等の書籍を販売。



●開館時間／午前9時30分～午後5時

4月～11月の金曜日は午後8時まで
（ただし入館は閉館30分前まで）

※平成13年度は毎週金曜日午後7時まで

●休館日／水曜日（休日の場合は翌日）

12月29日～1月3日

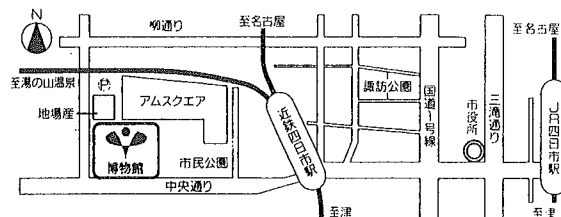
		常設展示	プラネタリウム
●料	金／一	般 210円	530円
	高・大学生	160円	370円
	小・中学生	100円	200円

※料金には消費税が含まれています。

●会場内での写真撮影、模写、万年筆、毛筆などの使用はお断りします。

●陳列ケース、展示品には触れないでください。

●館内での喫煙、飲食はご遠慮ください。



※博物館には駐車場はありませんので公共交通機関をご利用ください。

□陶壁（2Fロビー）

四日市市の歴史、美術資料の展示効果と現代建築における陶の材質美との調和を図るため、通路を歩く人の動きとともに画面が変化する一種のだまし絵的效果を意図した。

A面：安藤広重作

東海道五十三次「四日市の図」

B面：歌川國貞作「蜃気楼の図」

これらを四日市萬古焼の伝統技法により焼成。

高さ2.5メートル 幅5.0メートル

制作：萬古環境造形体

—— 平成12年度 ——

四日市市立博物館年報 第8号

平成13年11月1日 発行

編集・発行 四日市市立博物館

〒510-0075 四日市市安島一丁目3番16号

TEL 0593-55-2700 (代)

FAX 0593-55-2704

<http://www.city.yokkaichi.mie.jp/museum/>

印刷

東海出版有限公司

再生紙使用

